

はじめに

応用講座^{おうようこうざ}で勉強を始める小学校五年生のみなさま

これから勉強を始めるにあたって、大切なことをまとめておきました。

大事なのは、「今どれぐらいできているか」ではなく、これから勉強をはじめて「どれぐらい理解^{りかい}できるよ
うになるか」です。今より一歩でも前に進めるよう一緒にがんばっていきましょね。

勉強方法

文章問題

① 読む

← 必ず文章を読みましょう。

② 線を引く

← 大切だと思ふところにチェックをしましょう。

③ 問題を解く

← 文章の後についてある問題を解きましょう。

④ 文章の解説動画を見る

← わからないところがあれば、ノートをとっておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

⑤ 問題の解説動画を見る

← 丸つけをしながら、まちがったところを理解しましょう。

⑥ 復習

授業動画は《文章（本文）の解説 ↓ 問題の解説》の順で展開されているので、①②の段階で難しく思うのであれば、まず④の解説を見てから問題を解いてください。その後、問題を解いてみましょう。

← 文章を音読し、意味のわからないところがないか確認。

← また、まちがった問題、正解していたけれどよくわかっていなかった問題をもどって確認しましょう。

知識問題

① 知識の解説動画を見る

——問題を解く前に必ずチャプターの解説
を見てください。

——まちがった考え方で解いてしまうと、ま
ちがった考え方のクセがついてしまうの
で、その前に動画で正しい考え方を理解
してから解きましょう。

② 問題を解く

——考え方を身につけた後に、問題を解いて
みましょう。

③ 問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがった問題の考
え方を理解していきましょう。

④ 復習

——まちがった問題をしっかり見直し、やり
直しましょう。自分の考え方がまちがっ
ていないか確認したり、覚えないと解け
ないところは暗記したりしてください。

目次

第十一講	説明的文章⑤ p. 75
第十講	文学的文章⑥ p. 66
第九講	文学的文章⑤ p. 60
第八講	説明的文章④ p. 52
第七講	説明的文章③ p. 47
第六講	文学的文章④ p. 39
第五講	文学的文章③ p. 32
第四講	説明的文章② p. 24
第三講	説明的文章① p. 17
第二講	文学的文章② p. 11
第一講	文学的文章① p. 5

第十二講	説明的文章⑥ p. 80
第十三講	文学的文章⑦ p. 89
第十四講	文学的文章⑧ p. 95
第十五講	説明的文章⑦ p. 103
第十六講	説明的文章⑧ p. 109
第十七講	詩 p. 119
第十八講	短歌・俳句 p. 129
第十九講	敬語 p. 136
第二十講	品詞 p. 143
第二十一講	ことば p. 148

第一講

・ 文学的文章 ①



◆ 情景をとらえる

物語では、さまざまなできごとが起こりながら、話が進みます。そのできごとの一つ一つのまとまりを「場面」といいます。また、場面中において、景色や様子に登場人物の心情が表れていることがあります。それを「情景」といいます。

(1) ときをとらえる。

「朝」「夏」など、時間や季節を直接に表した表現だけでなく、「ねる」「まっくら」(夜であることがわかる)など、ときがわかることばにも注意してとらえましょう。

(2) 場所をとらえる。

「ときをとらえる」ときと同じように、場所を直接に表した表現だけでなく、風景や登場人物の会話や行動、様子にも注意してとらえましょう。

(3) できごとをとらえる。

状況を説明した文や登場人物の行動などから、どんなできごとについてえがかれた場面であるかをとらえましょう。

(4) 風景がくわしくえがかれているところをとらえる。

くわしい情景描写がされているところに注目して、場面の様子をとらえましょう。

(5) 登場人物の心情が表れた風景や様子をとらえる。

風景や様子と登場人物の心情とのつながりをとらえましょう。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「僕、^①お金持って遊びに行くのん、初めてや」

ときどき立ち停^どまると、喜^き一^{いち}はそのたびに掌^{てのひら}を

開^{ひら}いて、晋平^{*1}からもらった硬貨^②の数を確^{たし}かめた。信

雄^おは自分の金をそっくり喜^き一の掌^{うづ}に移した。

「僕のと合^あわしたら、何でも買^かえるで」

「そやなあ、あれ買^かえるかも知^しれへんなあ」

信雄も喜^き一^{いち}も、火薬^{くわく}を詰^つめて飛ばすロケットのお

もちやが欲^ほしかったのである。恵比須^{えびす}神社^{じんじゃ}の縁日^{えんにち}で

も売^うっていたから、きつと今夜も売^うっている筈^{はず}で

あった。

天満宮^{てんまんぐう}のような巨^き大^やな祭^{まつり}りではなかつたが、それ

でも商店街^{しょうてんがい}のはずれから境^{けい}内^{ない}への道^{みち}まで露店^{ろてん}がひし

めきあっている。人通^{ひと}りも多^{おほ}くなり、スルメを焼^やく

匂^{にお}いと、露店^{ろてん}の莫^も盛^{ぜい}の上^{うへ}で白^{しろ}い光^{ひかり}を発^はしているカ^かー

バイド^{*2}の悪臭^{あくしゅう}が、暗^くくなり始^{はじ}めた道^{みち}にたちこめて、

信雄も喜^き一^{いち}もだんだん祭^{まつり}り気^き分^{ぶん}にうかれていった。

15

10

5

*1 晋平 信雄の父親。

*2 カーバイド 炭化カルシウム。発生するガスで明

かりにする。

(宮本輝『泥の河』)

問一

——線①「お金持って遊びに行く」とありますが、①どこに、②何を買いたくてもお金を持って遊びに行くのですか。また、③ふたりはそこに行ってどんな気持ちになったのですか。

①

②

③

問二

この文章の場面の時刻はいつごろですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 朝 イ 昼 ウ 夕方 エ 夜

問三

——線②「硬貨の数を確かめた」とありますが、それはなぜですか。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

まあ落ちついてききたまえ。前にはなしたあの象を、オツベルはすこしひどくし過ぎた。しかたがだんだんひどくなったから、象がなかなか笑わなくなった。時には赤い竜の眼をして、じつとこんなにオツベルを見おろすようになってきた。

5

ある晩象は象小屋で、三把の藁をたべながら、十日の月を仰ぎ見て、

「苦しいです。サンタマリア。」と云ったということだ。

こいつを聞いたオツベルは、ことごと象につらくした。

10

ある晩、象は象小屋で、ふらふら倒れて地べたに座り、藁も食わずに、十一日の月を見て、

「もう、さようなら、サンタマリア。」と斯う云った。

「おや、何だって？ さよならだ？」月が俄かに象

15

「ええ、さよならです。サンタマリア。」

「何だい、なりばかり大きくて、からつきし意気地のないやつだなあ。仲間へ手紙を書いたらいいや。」月がわらって斯う云った。

20

「お筆も紙ありませんよう。」象は細ういきれいな声で、しくしくしく泣き出した。

「そら、これでしよう。」すぐ眼の前で、可愛い子どもの声がした。象が頭を上げて見ると、赤い着物の童子が立って、硯と紙を捧げていた。象は早速手紙を書いた。

25

「ぼくはずいぶん眼にあっている。みんな出て来て助けてくれ。」

童子はすぐに手紙をもって、林の方へあるいて行った。

30

赤衣の童子が、そうして山に着いたのは、ちょうどひるめしごろだった。このとき山の象どもは、沙羅樹の下のくらがりで、碁などをやっていたのだが、額をあつめてこれを見た。

「ぼくはずいぶん眼にあっている。みんな出てき

35

て助けてくれ。」

象は一せいに立ちあがり、まっ黒になって吠えだした。

(宮沢賢治『オツベルと象』)

*ーサンタマリア⇨聖母マリア。イエス・キリストの

母マリア。

*2沙羅樹⇨インド原産の木の名前。釈迦しゃかに關係の深い木。

問

——線①「ことごと象につらくした」とありますが、①オツベルが「象につらくした」のはなぜですか。また、②その結果、象はどうなりましたか。

①

②

問二

線② 「月が俄かに象に訊く」とあります

が、①象の言葉を聞いた月はどう思いましたか。
また、②月は象に何をしてくれましたか。

①

②

問三

線③ 「ぼくはずいぶん眼にあっている。

みんな出て来て助けてくれ」とありますが、
これは、①だが、②だれによって、ずいぶん
な眼にあっているのですか。また、③「みんな」
とはだれのことですか。それぞれ答えなさい。

①

②

③

問四

この文章の場面を二つに分けるとどこで分
れますか。後半の初めの五字を文中から書きぬ
きなさい。

第二講

・ 文学的文章②



一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

ことしも、いつのまにか、百羽^ばちかくのツルが、
やってきて、空の帆^ほかけ船のように、朝やけの大空
を群^むれとんだり、クルクル、クワアとラッパのよう
な声をひびかせたりしはじめました。

太郎^{たろう}と二郎^{じろう}は、そのツルたちを観察^{くわんさ}するためにつ
くった、わら小屋の中にもぐりこみました。

小屋といっても、わら小積^{こづ}みに、にせてつくった
小さいもので、ふたりで、その中にはいりこむと、
からだを動かすのも、きゅうくつなほどのものであ
りました。

小屋の前とうしろに、しょうじの一こまほどのあ
なを二つずつあけておきました。

① それ^①が、ふたりでツルたちの動作^{どうさく}をのぞき見る

10

5

まどなのです。

小屋の中にはいると、わらの新しいにおいが、ぶ
んぶんしました。はじめての経験^{けいけん}をするということ
はむね^②がわくわくするものです。

それに、この小屋は太郎と二郎とのふたりでくふ
うしてつくったものであるのでいっそうふたりの心
をはずませました。

ふたりの兄弟は、小屋の中にあつくしきつめた、
わらすべの上にすわると、たがいにかたをくんで、
顔を見あわせて、にっこりとわらいました。

そして、出^でがけに、ニワトリ小屋からもってきた、
生^なみたてのたまごを、一つずつポケットから出すと、
糸切り歯^{いときりば}で、両^{りょう}はしに、チョンチョンとあなをあけ、
顔をあおむけて、イタチのように、チューチューと
なまたまごをすすりました。

④ 戦^{せん}闘^{とう}準備^{じゅんび}であります。

(むくはとじゅう
椋^{りゅう}鳩^{こう}十『ツル帰る』)

25

20

15

問一

——線①「それ」とは、(1)どのようなもので、
(2)何をするためのものですか。

(1)

(2)

問二

——線②「むねがわくわくするもの」とありますが、なぜ「わくわく」するのですか。

問三

——線③「いっそうふたりの心はずませ」
た理由として最もよいものを次のうちから選
び、記号で答えなさい。
ア ツルがクルクルと鳴くのがおもしろかった
から。

イ ふたりで作った小屋で、初めてツルを観察
するから。

ウ 太郎と二郎のふたりで初めて遊びにきたから。
エ わらの新しいにおいが心地こころよかったから。

問四

——線④「戦闘準備」として、ふたりは何を
しましたか。最もよいものを次のうちから選び、
記号で答えなさい。

ア 顔を見あわせてわらった。

イ ツルを観察した。

ウ なまたまごをすすった。

エ かたをくんだ。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

——気圧^{きあつ}のせいで、耳がへんなんだ……。

サトルはつばを飲みこんだり、鼻をつまんで息を
むりやり吹きだしてみたりする。プールに深くも
ぐって耳がへんになったときにも、おなじようにし
た。

5

ガサツと音がして、まわりの音がちゃんときこえ
るようになった。エンジンがゴーゴーとうなってい
る。うるさいけれど、耳にまつていたものがとれ
たみたいで、気持ちがいい。

「雲の層^{そう}からでると、窓^{まど}のそとに真っ暗な空がひろ
がった。機体が、すこしななめにかたむく。かたむ
きながら、すべるようにおりていく。銀色のフラッ
プが、めくれるように上にあがった。

10

宇宙^{うちうち}へとつながる夜空の下に、光のじゅうたんを
ひろげたような街の明かりが見えてきた。

15

オレンジ色の光の線と、星のような緑色の光の点^{てん}

滅^{めつ}。そのあいだをぬって動く赤い光の帯は、道を走
る車たちのテールランプだろうか。

——なんて大きな街なんだ。まるでSF映画^{エスエフえいが}の未来
都市みたいだ……。

20

サトルは口を半開きにしたまま、目をうばわれて
いる。光^②のじゅうたんの、はしからはしまでが見わ
たせない。真っ暗な空の下ぜんぶがキラキラ光って
いる。飛行機はつばさをしならせて、星雲の中心に
すいこまれるようにして高度を下げていく。

25

サトルは、さっきまでサッカーのゲーム機をピコ
ピコやっていたが、いまは、その小さなボタンを押^お
すこともわすれて、目の下のまぶしい世界をのぞき
こんでいる。

③ 光の海がぐんぐん近づいてくる。明かりのついた
たくさん窓がならんだビルや、高速道路が自分の
目の高さとおなじになり、オレンジや緑の光が線に
なって、うしろに飛んでいく。

30

体がうくような感じがして、ドンッとおしりが下
からつきあげられた。着陸すると、四つのエンジン

35

がものすごい音をだして逆噴射した。飛行機のス
ピードが見るまにおそくなる。窓のそとのけしきが、
ゆっくりと流れていく。

飛行機はまだ滑走路の上をすべっているのに、と
なりの席のお父さんは、もうシートベルトをはずし
てしまった。ほかの人たちはまだじっとすわってい
るのに、お父さんだけがそわそわして落ちつきがな
い。

飛行機に乗っているあいだじゅう、^④ずっとそう
だった。分厚い書類のたばをめぐったり、ノートパ
ソコンのキーをカチャカチャたたいたりして、とも
かくじっとしていなかった。

サトルは、なにもしないでぼーっとしているお父
さんを見たことがない。だまって遠くを見ていたり、
目を閉じてなにかを考えているようなお父さんを見
たことがない。いつもなにかしていて、いつもいそ
いでいる。いつも「いそがしい、いそがしい。」と
いい、そして、ときどき「つかれた。」とため息を
つく。だからサトルは、そんなお父さんとちゃんと

50

45

40

話をしたことがない。

——だれのお父さんも、みんなおなじようにいそが
しいのだろうか。それとも、ぼくのお父さんはとく
べつなのだろうか……。

サトルは、ときどきそんなことを考える。

(戸井十月「カチーナの石」)

*フラップII飛行機の主翼に付いている小翼。

55

問一 ここでは、どんな場面が中心に描^{えが}かれていますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア サトルの乗った飛行機が飛び立とうとする場面

イ サトルの乗った飛行機が降下し着陸しようとする場面

ウ 飛んでいく飛行機をサトルが見ている場面

エ サトルがSF映画を見ている場面

☐

問二 線①「口を半開きにしたまま、目をうば

われている」サトルの様子を表すことばとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 失望

イ 不安

ウ 無関心

エ 夢中^{むちゆう}

☐

問三 線②「光のじゅうたん」、③「光の海」は、ともに何をたとえた表現ですか。文中から五字で書きぬきなさい。

問四 線④「ずっとそうだった」とありますが、どんな様子だったのですか。文中から七字で書きぬきなさい。

問五 「よりあとの部分を、サトルの意識の向いている対象に着目して二つに分けるとすると、後半はどこからですか。その初めの五字を文中から書きぬきなさい。

問六 問五で分けた前半と後半の場面について、次の問題に答えなさい。

① 前半の場面では、サトルの意識は何に向けられていますか。文中から五字以内で書きぬきなさい。

② 後半の場面では、サトルの意識は何に向けられていますか。文中から五字以内で書きぬきなさい。

③ ②で答えた対象に対するサトルの気持ちを、五字以内で答えなさい。

第三講

・説明的文章①

◆段落の要旨^{だんらくようし}

文章を組み立てている一つ一つの内容のまとまりを「段落」といいます。段落には、次の二つがあります。

形式段落 一字下げて行がえになっているひとまとまり

意味段落 いくつかの形式段落が集まった大きな

意味のまとまり

説明文を読むうえでは、各段落で筆者が言おうとしていることの中心をとらえることが大切です。

(1) 段落の話題をとらえる。

まずは、その段落がどんなことについて述べたものかとらえます。話題は、問いかけの形で示されることがよくあります。

(2) 段落の要点をとらえる。

段落の要点をとらえるには、「内容をまとめ

た文(キーセンテンス)」と「具体例を述べた文」とを区別して読む必要があります。段落の中心となるのは「内容をまとめた文」なので、「内容をまとめた文」を、キーワードを手がかりにしてとらえます。

・キーワード：話題の中心となる重要なことばです。話題を示す文をはじめ、何度も使われます。

(3) 要旨をまとめる。

段落の内容をまとめます。(1)でとらえた話題に合う形で、キーワードや「内容をまとめた文」の表現を使ってまとめれば、中心となることはつきりするようにまとめることができます。

一題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

1

①人間にとって一生のうちで、いちばん大事な時期はいつごろでしょうか。②これは愚問*1ぐもんかもしれません。③人生のなかで大事でない日などというのは、一日たりとてないからです。④けれど、

いちばん幸福な日々はいつかと問われたなら、私は確信かくしんをもって、少年時代、と答えます。⑤

5

むろん、何をもって幸福と言うか、その考え方はさまざまでしょう。⑥しかし、私自身、自分の五十年にわたる歲月さいげつをふりかえってみて、ちゅうちよなくそう断言だんげんできるように思います。

10

2

⑦と言っても、その少年時代に私は自分が幸福であるなどとは少しも思いませんでした。おそらく、だれでもそうでしょう。少年のころ、あるいは少女のころは、自分が幸福だなどと思わないくらい幸福なのです。たとえ、どれほど苦しい環境かんきやうにあっても、です。

15

3

⑧なぜなのだろう、と私はときどき考えます。*2たん端的に言えば、何につけても夢中むちゆうになることができるからではないでしょうか。

4

⑨そんなことはない、大人おとなになってからでも夢中になれる、と言うかもしれません。たしかに夢中になれるでしょう。けれど、その夢中になるなり

20

方がちがうのです。少年のころは、まったく我われをわすれて没頭*3ぼつとうできる。純粹じゆんずいに夢中になれる。しかし、大人になると、たとえ何かにどれほど夢中になっても、かならずほかのことへの配慮はいりよが働いて

25

います。ほかのことが気になりつつ、あることに熱中もりもしているにすぎません。

(森本哲郎「ことばへの旅」)

*1愚問ぐもん || おろかな質問。

*2端的に || てつとりばやく。

*3没頭 || 一つのことに夢中になること。

問一

①段落で、筆者のいちばん述べたいことが、
まとまった形で書かれている一文を、ア カ か
ら選び、記号で答えなさい。

問二

①段落の要点を三十字以内でまとめなさい。

問三

②段落で強調されていることとして最もよ
いものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア 筆者の少年時代があまり幸福ではなかった
ということ
イ いつが幸福な時代かはだれも知りえないと
いうこと

問四

④段落は、少年時代と大人になってからの
ことが、くらべる形で書かれています。それぞ
れの時期の、何かに夢中になるなり方を、三十
字以内でまとめなさい。

ウ 苦しい環境ほど本当は幸福なのだというこ
と
エ 少年時代がいかに幸福であるかということ

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。(1)～(5)は意味段落の番号を表します。)

1 「友情」というものがちゃんと成立するには、

タイミングが必要です。

小学生時代はついにそういう関係はなかったと

か、中学三年間通して一度も友情と言えるものが

なかったということもあり得るのです。

でも、それは誰が悪いわけではなくて、相性が

よくなかったとか、あるいは自分自身にそういう

高め合うような友だち関係を維持していくメンタ

リティー、心のあり方がまだ備わっていなかった

ということなのです。

2 その友情というのが、一つの友だち関係の中の

非常に「向上心にあふれた部分」だとすると、現

在の世の中では、もう少し「ゆるい友だち関係」

というの必要ではないでしょうか。

一人親友がいて、友だちはその人だけという

ちよっと幅が狭いと言えます。今の人が求めている

るのは「浅く広い関係性」です。メル友*くらいの感じですよ。

3 メル友が百人、二百人いる人はざらにいるよう

ですが、やはり現代は携帯電話^②によって人間関係

が大きく変化していて、一人でいる時間でも、友

だちとゆるやかにつながっている感覚を持ち得る

のです。

勉強していたり音楽を聴いている時に、常に携

帯が側にあり、携帯なしではトイレにも行けない。

それは、携帯がなかった世代からすると携帯に依

存しているように見えますが、でもこの時代に生

きていくには、携帯なしでは辛いのです。

なぜかという、夜遅くの電話のように相手に

迷惑をかけずに、簡単に意思を伝えられるという

のは、非常に便利なことです。「今、〇〇をテレ

ビでやっているから見ろよ」というような、昔な

らばかばかしくて電話では言えないことでも、

メールならば気楽に言えるし、常に人とつながっ

ている感覚が持てるのです。

そういう意味では、昔よりも「友だち力」というものが維持しやすい条件は整っていると言えるでしょう。

4 友だちを維持しやすい条件は整っているのですが、逆に、メールが来ないと不安になったりします。メール依存症に近いものです。

友だちとつながっていない状況、連絡が来ない状況が三日も続くと、不安で頭がおかしくなりそうになるのです。

3 かつて私は、友だちが全くないという時期がありました。とても仲の良い友だちはいたのだけれど、一週間誰とも会わないとか、ほとんど話をしなかったという状況が、十代の終わりにはあったのです。そういう時期を過ぎた経験からすると、二、三日誰からも連絡がないと心配になるということはなかったと思います。

5 最近の人は、ふだんからゆるやかなセーフティネットのようなものを、携帯のネットワークで張っているようです。これは、心を安定させ

るには、それなりに有効な手段だろうと思います。お互いに好きなものがあると、「あれ見た」とか、「あれ食べた」とか、「あそこに行った」というような話題をメールして、コミュニケーションをとっていく。

4 こういうゆるやかなつきあいをしていくのも、一つの友だち力と言えます。また、こういうつきあいが苦手で、たくさんの方だちとはつきあえない人もいます。でも数は少ないけれど話せる人はいるし、それで満足できるという人は、これはこれで「友だち力」があるということになります。

(齋藤孝『友だちいないと不安だ症候群につける薬』)

*1 メール友メールをやり取りする友だち。

*2 依存他物にたよって存在すること。

*3 セーフティネット万が一のときに最悪の事態にならないようにする仕組み。

問一

①段落で、筆者が最も言いたいことが書かれている一文は……線A～Cのうちどれですか。記号で答えなさい。

問二

②段落の要旨をまとめた次の文の……にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

現在世の中の人々が求めているのは、

である。

問三

——線①「一つの友だち関係の中の非常に『向上心にあふれた部分』」とは、つまりどんな関係のあり方をいったものですか。文中から十二字で書きぬきなさい。

問四

——線②「携帯電話」を持つことの欠点について述べているのは何段落ですか。段落番号で答えなさい。

問五

——線③「かつて私は」で始まる形式段落は、

④段落の中でどんな役割を果たしていますか。

最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 前で述べたことに反する自分自身の経験を

紹介し、別の可能性を説明している。

イ 前で述べたことが、誰にでも起こりうるもの

のだということを自分自身の経験もまじえて

説明している。

ウ 前で述べたことに反する自分自身の経験を

紹介しながら、何が起きるかわからない状況を

を説明している。

エ 前で述べたことが、現代に特有のものだと

いうことを自分自身の経験を通して説明して

いる。

☐

問六

——線④「友だち力」とは、ここではどんな

能力のことですか。次の文の□にあてはまることは文中から書きぬきなさい。

携帯電話をセイフティーネットとして使い、

友だちと

をする能力。

☐

問七

⑤段落につける小見出しとして最もよいもの

を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 友だちとのつきあいが苦手な人

イ 浅く広いゆるやかな友だち関係

ウ メールによるコミュニケーション

エ 楽しい話題で友だち力をつける

☐

第4講

・説明的文章②



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。(1)〜(3)は意味段落の番号を表します。)

1 私は以前、『そんな友だちなら、いなくたって

いいじゃないか!』という本を小学生向けに出しました。そうしたら、大人が読んで、よかったという反応がたくさん返ってきました。

ある女性の障害者の方からいただいた手紙には、こんなふうに書いてありました。

自分も障害を持っているので、今までどうしても友だちが少なかったのです。それで、友だちが欲しくて、ある女性とつきあっていました。その人は実は自分が友だちとして好きじゃない人なのだけど、他に友だちがいなくなるのが怖いのでつきあっていたのです。先生の本を読んで、そのことがよくわかり、そういう友だちならいいなくて

10

もよいのかなと思った時に、すごく気持ちが楽になって、無理につきあうのを止めるようにしました。それで今はむしろ落ち着いています、と。

これは大人の女性の方ですが、こういうことは、年齢がある程度いつてもあることなのです。

例えば、六十代七十代の方でも、サークルなどの狭いつきあいの中で、誰かと誰かの距離が遠くなったとか、近くなったとかで不安になることもあります。

15

ですから、不安で心が揺らがないためにも、自分の心が戻るべきホームグラウンドみたいなものをつかりと持っておくことが重要になってきます。

20

2 ① 自分の世界をどうやって持てばいいのかというと、自分の好きなものをつかりと自分の周りに配置しておくことです。そうすると、友だちがい

25

なくなっても、ベートーベンをひたすら聴いてい
れば、心は安定しますし、一人で盛り上げられます。
あるいは、友だちがいなくなっても、村上春樹を
読み続けていけば、その世界に浸ることで満足感
を持つことができます。

そういう自分の心のやり場を求めていくうち
に、その時初めて、深くレベルの高いものと関わ
ることができるようになります。逆に言えば、友だちがい
なくなった時がチャンスです。

日常的に意識が流れていってしまわずに、その
意識がぎゅっと凝縮していきます。そうした孤独
のエネルギーによって、勉強したり、あるものを
深めたりすることができるようになります。

3 ですから、たいがい一流の人というのは、孤独
な時期というのを持っているのです。その時生ま
れるのが「四面楚歌力」。

周りが全部自分の敵であるような気がする時が
あります。「誰もいないんだ、俺には」と感じる
時があります。その時がチャンスです。

そうなれる僕、そうなれる私、そう考えると強
くなれます。その時に状況をポジティブにとらえ
られると、「四面楚歌力」がつくのです。

四面楚歌の状況というのは、実は何かを集中し
て学ぶのにはよいことなのです。文学にせよ音楽
にせよ、本格的に学ぼうとすると、実は自分自身
の世界にグーツと入り込んでいかないとできませ
ん。青年期のある時期は、むしろそうした孤独の
力を持っているほうが世界が深まってきます。そ
こで培った一つの世界が自分の原点になったりし
ます。

(齋藤孝 『友だちいないと不安だ症候群につける薬』)

*1 サークル 〓 同じ趣味をもつ仲間。

*2 ホームグラウンド 〓 故郷。本拠地。

*3 村上春樹 〓 作家。

*4 凝縮 〓 こりかたまつて、ちぢまること。

*5 四面楚歌 〓 まわりがみな敵で、味方がいないとい
う意味の、中国の古典に由来することば。

*6 ポジティブ 〓 ここでは、前向きなこと。

問一

① 段落の話題の中心はどんなことですか。
次の文の にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

とのつきあいから生まれる

問二

① 段落で、筆者が最も言いたいことが書かれている一文を文中からさがし、その初めの五字を書きぬきなさい。

問三

—— 線①「自分の好きなもの」の例として挙げられているものを、文中からすべて書きぬきなさい。

問四

② 段落の要旨^{ようし}として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 友だちがいなくなっても満足できるような世界こそ深くレベルが高いものである。

イ 孤独のエネルギーがあれば、心のやり場がなくても心が安定する。

ウ 友だちがいなくなった時にそなえて日常的に勉強しておくことで満足感が得られる。

エ 自分の世界を求めていくことを通して、自分を深めることができる。

問五

——線②「四面楚歌力」とほぼ同じ内容を表す四字のことばをここよりあとの文中からさがし、書きぬきなさい。

問六

——線③「自分自身の世界にグーッと入り込んでい」く様子を表す十五字のことばを文中から書きぬきなさい。

問七

③段落の要旨をまとめた次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

青年期における

の状況

は、のちの自分にとっての

となり

得る

を培うチャンス

といえる。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) (5)は意味段落の番号を表します。

1 そんなに寂しさを感^{さび}じないで、ひとりでいる時^{とき}が快適^{かいてき}に思えることもあります。孤独^{① ひとりどく}の時間というものを、もっと積極的に意義^{いぎ}あるものにするべきです。

寂しいという気持ちを徹底^{てつてい}して強めていくことで仕事へ向かうエネルギーに転換^{てんかん}するとか、勉強するエネルギーに変えていくとか、そういう「孤独」みたいなものに持っていければいいのです。

2 ただし、ひとりでいる時に充分^{じゅうぶん}楽しめる「何か」を持つているということが必要になります。その「何か」をあらかじめ作っておかないと、ひとりになった時に、やはり寂しくなってしまう。

私^{わたし}の場合は、座禅^{ざぜん}や、ヨガや、ストレッチングをやっている、これはひとりの時間を延々^{えんえん}つぶせるよい方法でした。ヨガを習って、ひとりで呼吸^{こきゅう}法のポーズをとっていると、人がいるとやりにく

くて、じゃまになってくるのです。ですから、これはひとりの時間にやるのがふさわしいのです。

20 このように、ひとりの時間には自分の身体とつきあうというのが、とてもよい方法でしょう。ストレッチング一つとっても、結構時間をかけて楽しめる方法があつて、音楽をかけながらもいいですので、ひとりで自分の身体とつきあうというものなかなかいいのではないのでしょうか。

25 ひとりの時間を楽しむ方法としては、読書や音楽や絵を描^かくことなども、一般的な方法としてあります。

3 ひとりの時間と言っても、自分の部屋にこもつて妙^{みょう}に落ち着いてしまつて、いわゆる引きこもりに近い状態になつてしまつと危険^{きけん}です。

30 ネットを通じてなら人と話せるのだけれど、現実の人間と対面するといふ状況^{じょうきょう}に適應^{じようぎ}できなくなつてしまふ。そうなる、もう家から踏み出せなくなつて、外は怖^{こわ}いといふことになりますので、こういう状況は避^さけたい。

ひとりでも大丈夫だいじょうぶというのはよいのですが、他の人との対面はダメということになってしまふと、ちよつと危険です。他の人の持っている世界に対する好奇心こうきしんがなくなるのは、よくないことです。自分の殻からの中に入つて、自分の世界を閉とじた状態が固かたまつてきてしまふと、いよいよ人とは話せなくなつてきてしまふ。これがあまり進むと、犯罪はんざいに一步近づくといい怖さもある。ですから、これもほどほどがいいのです。

③ 極端な孤独の状態に入る場合には、修行だと思つてやつたほうがよいのです。修行だと思つて勉強しているうちは大丈夫。

女同士もグループ化はげが激しいので、かえつて孤独のほうが楽な場合もあります。ひとりでいるというのは、慣なれてみると快適ふきだったりすることもあります。

4 人生にも季節があつて、それぞれの時期の友だちというのがあります。熱い友情を語ることもあれば、仕事上のつきあいつきあいで何となく友だちでいる

こともある。かなり年が離はなれていても、二十歳さいくらい年下でも、友だちっぽくなつてしまふ人もいます。そういう友だちが、ちよつと心地こころよい年齢ねんれいみたいなのがあります。

5 友だち力ちからというのは、友だちを作る力ではないのです。無理して作らなくてもいいということも含めて、友だちとの距離感きょりかんをコントロールできるということ＊です。距離感が大事というニュアンスです。

友だちとの距離感を意識いしきして、自分でコントロールできていれば大丈夫なのです。ところが、「仲間はずれにされちゃった」というように、されちゃった感が強すぎるのは、自分でコントロールできていない状態です。

気持ち軽く持つて、ほどほどの友だち力をつけていききたいものです。

＊ ニュアンスⅡここでは、意味合い。
(齋藤孝『友だちいないと不安だ症候群につける薬』)

問一

線①「孤独の時間というものを、もっと積極的に意義あるものにする」とありますが、それができる能力を筆者は何と呼んでいますか。
 ①段落の文中から書きぬきなさい。

問二

②段落の小見出しとして使える十二字のこ
 とばを文中から書きぬきなさい。

問三

線②「引きこもりに近い状態」の人と、
 ③「修行だと思って」いる人は、ひとりの時間に対してどんな姿勢でいると言えますか。最もよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ひとりであることをいやがっている。
 イ ひとりであることににげこんでいる。
 ウ ひとりであることをうらんでいる。
 エ ひとりであることを利用している。

②

③

問四

③段落の要旨をまとめた次の文の□□にあ
 てはまることばを文中から書きぬきなさい。

孤独であることはよいが、

にして

はいけない。

問五

4 段落に書かれている内容として最もよい

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人生の中で、いろいろな友だちが急激に増える時期があるものだ。

イ 友だちと自分が人生のどれぐらいの間つ

きあうのかは、それぞれの年齢によってちがうものだ。

ウ どんな相手であつても、つきあうのにちょうどよい年齢があるものだ。

エ 友だちというものは、人生の時期・年齢によつて、いろいろなつきあい方、いろいろな相手があるものだ。

☐

問六

5 段落の要旨をまとめた次の文の ☐ にあ

てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

とは友だちとの

を

できる力である。

第5講

・ 文学的文章 ③



◆登場人物をとらえる

物語では登場人物をとらえることが大切です。

登場人物というと人間だけのようですが、動物や植物でも、人間のように考えたり話したりするものは、登場人物です。

(1) だれが登場するのかをとらえる。

それぞれの場面においてだれが登場するのかに注目して、すべての登場人物をとらえます。

(2) 登場人物の性格をとらえる。

それぞれの登場人物の性格をとらえます。登場人物の心情は場面によって変わりますが、性格はあまり変わりません。

① 性格を直接表した表現をとらえる。

地の文で登場人物の性格を述べているところのほか、他の登場人物がその人物のことをどのように言っているかにも注意します。

② しぐさ・様子・行動からとらえる。

物語中で起きるできごとに対しての登場人物のふるまいから性格をとらえることができます。

(3) 登場人物どうしの関係をとらえる。

物語に登場する人物（特に主人公）が、他の人物とどんな関係にあるかをとらえましょう。登場人物の立場（地位・職業など）や会話の口調などに注意します。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「きつちゃん、きつちゃん」

信雄のぶおの声は、子供たちの喚声かんせいや祭り囃子ばやしに消されてしまった。喜一きいちは小走りせうそうりで先へ先へと進んでいく。相当狼狽せうろうばいして信雄を捜さがしているふうであった。信雄は大人たちの膝元ひざもとをかきわけ、必死で走った。何人かの足を踏み、ときどき怒声どせいを浴びて突き飛ばされたりした。境内けいだいの手前まへにある風鈴屋ふうりんやの前でやっと喜一に追いついた。赤や青の短冊たんざくが一斉いっせいに震え始め、それと一緒に、何やら胸むねの底に突き立ってくるような冷たい風鈴の音に包み込まれた。信雄は喜一の肩かたを掴つかんだ。喜一は泣ないていた。泣きながら何かわめ

いた。

「えっ、なに？ どないしたん？」

よく聞きとれなかったので、信雄は喜一の口元に

耳を寄せた。

「お金あらへん。お金、落とした」

15

10

5

②

風鈴屋の屋台からこぼれ散る夥おんたしい短冊の影が、喜一の歪ゆがんだ顔に映うつっていた。＊狼狽せうろうばい＝あわてふためくこと。

(宮本輝『泥の河』)

問一

——線①「喜一は泣いていた」とありますが、なぜ、喜一は泣いていたのですか。その理由を二つ答えなさい。

問二

——線②「風鈴屋の……映っていた」から喜一のどんな心情しんじょうがわかりますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア さびしさ イ 強い不安
ウ あきらめ エ 心地よさ

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

川ぞいのY病院の受けつけて、診察券を出して待合室に入ると、

「よっ」

① 大きなボストンバッグを下げた、哲に声をかけられた。正直にいうと、ボサボサ頭で、ところどころほつれのあるセーター姿の哲と話すことは、はずかしかった。

待合室の人々の視線が、みんなぼくたちを集まったような気がした。

「風邪か」

哲の言葉に、だまってうなずいた。

「唐沢君は」

そういつてから、ぼくはいいなおした。

「哲は」

「入院しているばあちゃんの洗たく物を取りにきたんだ。なかなか、足がよくならなくてさ」

15

10

② ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

「ジュースでも飲まないか」

ぼくは、その場から早く離れたかった。

ぼくが、自動販売機に歩き出すと、

「悪いな。おれ、オレンジ」

哲も、すなおにあとをついてきた。

「病院の中、暖房強いから、のどかわいて」

ジュースをいっきに飲みほした哲は、セーターの

そでで口をぬぐった。

「それ、哲が、洗うの？」

「うん。おれしかいないじゃん。といっても、洗たく機がやるんだけどさ」

ぼくは、今まで一度も洗たく機のボタンを押したことがない。

「おれんちのかあちゃん、心の病気で入院してんだ。とうちゃんは、おれが三年生の時、屋根から落ちて死んでさ、大工だったからね。かあちゃん、下の妹産んだばかりで、それで入院したんだ」

ぼくは、ジュースの缶を見ていた。

「おれんちのかあちゃん、心の病気で入院してんだ。とうちゃんは、おれが三年生の時、屋根から落ちて死んでさ、大工だったからね。かあちゃん、下の妹産んだばかりで、それで入院したんだ」

ぼくは、ジュースの缶を見ていた。

「おれんちのかあちゃん、心の病気で入院してんだ。とうちゃんは、おれが三年生の時、屋根から落ちて死んでさ、大工だったからね。かあちゃん、下の妹産んだばかりで、それで入院したんだ」

ぼくは、ジュースの缶を見ていた。

「おれんちのかあちゃん、心の病気で入院してんだ。とうちゃんは、おれが三年生の時、屋根から落ちて死んでさ、大工だったからね。かあちゃん、下の妹産んだばかりで、それで入院したんだ」

35

30

25

20

「仲、よかったんだね」

「えっ？」

哲は、ぼくのいったことの意味がわからなかったらしく、ききかえしてきた。

「哲のおとうさんとおかあさんさ」

「ああ、うん。そりゃあ、仲よかった。とうちゃんが仕事休みの日は、よくドライブに出かけたし、家にいると、みんなよくわらったなあ。とうちゃんとかあちゃん、十八歳^{さい}で結婚^{けっこん}したんだ。式^{しき}なんてしてないし、新婚旅行^{しんこんりょこう}なんてしてないけど、おれたちは世界一仲がいいって、とうちゃんいった」

哲の言葉が、つまった。

「だからさ、おれ」

哲が、鼻水をすすった。

「男だし、ばあちゃんや妹たち、しあわせにしないでちゃんないんだ。とうちゃんのかわりに」

④ ぼくは、もうジュースが飲めなかった。

(上條^{かみじょう}さなえ『友だちじゃないか』)

* 哲^{しん}「ぼく」の同級生。おさない妹二人のめんどうをみ

50

45

40

るため、学校を休みがちである。

問一

「ぼく」は病院へ何をしにきましたか。次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

をひいて、診察を受けにきた。

問二

哲は病院へ何をしにきましたか。それがわかる一文を文中から書きぬきなさい。

問三

線①「大きなボストンバッグ」には何が入っていると考えられますか。次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

入院中のばあちゃんの。

問四

線②「ジュースでも飲まないか」と言ったとき、「ぼく」はどんな気持ちでしたか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 哲と話しているところをみんなに見られるのが、はずかしくてたまらない気持ち

イ だれにもじやまされずに哲とじっくり話をする機会ができたのを、喜ぶ気持ち

ウ 家のことでいろいろたいへんな哲を、はげましてあげたい気持ち

エ 予想外の場所で友だちに会えたのがうれしく、落ち着かない気持ち

問五

線③「おれしかないじゃん」とありますが、洗たくをする人が哲しかないのはなぜですか。哲の家族の状況をまとめた次の表の空らんにあてはまることばをそれぞれ書きなさい。

とうちゃん		かあちゃん		ばあちゃん		妹たち	まだおさなく、哲がめんどうをみている。
-------	--	-------	--	-------	--	-----	---------------------

問六

問五の哲とは対照的な「ぼく」の立場がわかる一文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問七

線④「ぼくは、もうジュースが飲めなかった」とありますが、これは「ぼく」のどんな様子を表していますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもなのに重い責任を負っている哲が気の毒で、なみだを必死にこらえている様子
- イ 哲の置かれていた状況が予想より良かったので、拍子抜けしている様子
- ウ 哲のあわれな身の上話を聞いて、どうなくさめたらよいか考えをめぐらせている様子
- エ 家族に対して何の責任も負っていない自分を哲と比べ、気が引けている様子

第六講

・ 文学的文章 ④



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「ぼくと哲はしだいに仲良くなっていってたが、哲はおじさんの家に引っこすことになった。」

①「お別れ会の実行委員を、決めなくちゃ」

みやもと 宮本さんが、立ち上がった。

「そうだな、実行委員をやってくれる人、手をあげて」

先生の言葉に、ぼくは気がつくと手をあげていた。 5

「村松、おまえ、やってくれるのか」

ぼくが、うなずくと、哲が、

「村松はいいよ、先生」

と、大きな声でいった。

ぼくは、哲を見た。

「村松は、入試があるじゃんかあ、先生。大事な時

10

だぜ。だめだなあ、先生、教育的配慮^{はいりよ}がたりないよ」

「あつ、そうか」

先生が、頭をかいた。

「いえ、先生、ぼく、やります」

ぼくは、自分の意見を通した。

給食の時間、哲のまわりを女の子が、とりかこんだ。

それを見て、先生が、

「すげえ、哲、アイドルみたい」

と、ひやかすと、

「おれ、アイドルだもん、先生。知らなかったの、

どっから見てもジャニーズ系^{けい}じゃん」

哲が、サラサラのかみの毛を片手^{かたて}でかき上げるし

ぐさをした。

「ジャニーズ系って、なんだ？」

先生が、げげんそうな顔をして、みんなにきいた。

25

20

15

「先生、おくられてるう。今、一番人気あるアイドルグループの事務所の名前で、そこからデビューしたアイドルを、ジャニーズ系っていうんだよ」

青木が、説明すると、先生は腰をちよつとひくくするふりをして、

「失礼しました」

といったので、クラスにわらいが起きた。

「それぐらい知ってないと、子どもの心はつかめませーん」

哲が、いうと先生は、

「反省してます」

と、頭をかいた。

② いつものクラスのふんいきになった。

一瞬、ぼくは哲の転校を、忘れそうになった。

③ 授業のあと、先生が職員室にぼくを呼んだ。

先生の机の上に小さなカレンダーが置いてあって、二月の二十日、二十二日、二十五日に赤丸がしてあった。

「もうすぐだな、入試」

45

40

35

30

先生が、カレンダーを見ていった。

ぼくは、先生のやさしさに胸がいっぱいになった。

「だいじょうぶか、実行委員。先生はうれしかったけどさ。家で心配するんじゃないか」

「だいじょうぶです」

「そうか。哲、よろこんでたよ」

「だって……」

④ ぼくは、もう一度カレンダーを見た。

「だって、哲は、ぼくの友だちなんです」

先生が、だまって、うなずいた。

(上條さなえ『友だちじゃないか』)

55

50

問一 — 線① 「お別れ会」とありますが、だれの

お別れ会ですか。

問二 「ぼく」がお別れ会の実行委員をするかどうか

かについての(1)先生、(2)哲、(3)「ぼく」の考えとして最もよいものを次のうちからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 友だちなのだから、ぜひともやるべきだ。

イ 入試の前で大変だろうが、やってくれたらうれしい。

ウ 気持ちはいれしいが、大事な時だからやらないほうがよい。

エ やりたい人はたくさんいるので、無理にやらなくてよい。

オ 仲がよかったわけでもないのに、出しゃばらないでほしい。

(1)

(2)

(3)

問三 — 線② 「いつものクラスのふんいきになっ

た」とありますが、(1)「いつものクラスのふんいき」、(2)「いつものクラスのふんいき」になる前のふんいきとして最もよいものを次のうちからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア きびしく責め合うふんいき

イ 明るく笑い合うふんいき

ウ 期待にうかれるふんいき

エ 別れを悲しむふんいき

(1)

(2)

問四

——線③「授業のあと、先生が職員室にぼくを呼んだ」とありますが、何のためですか。次の□にあてはまることは文中からそれぞれ書きぬきなさい。

いうことをかくにんするため。

問五

——線④「ぼくは、もう一度カレンダーを見たとありますが、何を見たと考えられますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」の入試までの日数
 イ お別れ会までの予定
 ウ 先生の今後の予定
 エ 哲がいなくなってしまう日

--

問六

この文章から、(1)先生、(2)哲、(3)「ぼく」のどんな性格が読み取れますか。その説明として最もよいものを次のうちからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ふざけてばかりに見えるが、人を気づかうやさしさがある。

イ だれに対してもやさしく、クラスの人気者である。

ウ しっかり者で、先生にもクラスのみんなにもたよられている。

エ 子どもの関心事にはうといが、温かい心をもっている。

オ まじめで、思いこんだらがんこにゆずらないところがある。

(1)	
(2)	
(3)	

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

給食の終わり近くになって、哲がビニールぶくろを持って、立ち上がった。

ぼくは、まったく手をつけていないパンを、ナプキンで包んだ。

お腹は、すいていたけど、パンを食べなかった。

5

① 今日こそは、哲にパンをあげたいとおもったのだ。

「さて、みなさん、最後のカンパです」

哲が、歩きはじめた。

宮本さんが、青木が、哲のビニールぶくろにパンを入れた。

10

ぼくは、なんども深呼吸をした。

哲が、ぼくのそばへ歩いてきた。

「これ……」

ぼくは、ナプキンで包んだパンをさし出した。

哲が、ぼくと、パンを交互に見た。

哲は、ちよっと、悲しそうな顔をした。

15

そして、

「いらねえよ」

と、いった。

「えっ？」

ぼくには、哲の言葉の意味がわからなかった。

「いらねえよ、おれ、友だちからはもらわねえんだ。だって、おれたち、友だちじゃないか」

ぼくは、哲に失礼なことをしたとおもった。

「ごめん」

「対等で、いたいんだ」

哲は、小さな声でいった。

ぼくは、パンの包みを机の上にもどした。

哲を友だちだといいながら、ぼくは哲をあわれんでいた。

30

ぼくたちは、決して、対等ではなかったんだ。

先生が前にいった、貧富の差ということをおもい

出していた。

土曜日のお別れ会に行こうか、どうしようか、ぼ

35

20

25

くはまよっていた。

③ ぼくという人間に、ぼく自身が失望していた。

「類、電話よ、女の子から」

ママの声に、トゲがあった。

受話器の向こうから、宮本さんの声がきこえた。

「ごめんなさい。お別れ会に、村松君こないから電話したの。あのね、私も青木君も、昨日、シヨック

だった。④ 私や青木君なんて、哲ちゃんにとって、友

だちでもなんでもなかったんだって。村松君だけが、

哲ちゃんにとって、友だちだったって、昨日、知っ

たから」

「ぼくも、友だちじゃないよ」

「そんなことないわ。私や青木君たちは哲ちゃんが
かわいそうだって、ただ同情してたの。村松君は、

ちがう」

ぼくは、時計を見た。

まだ、お別れ会が始まって十五分しかたっていない。
い。

「行くよ、ぼく」

50

45

40

受話器を置くと、ママがいった。

「友だちは、これからいっぱい、できるわ」

って。

⑤ ぼくは、ママの顔を見ずに玄関^{げんかん}に行った。

（上條^{かみじょう}さなえ『友だちじゃないか』）

*カンパうちに働き手がない哲は、給食のパンの残
りをみんなからもらっていた。

55

問一

——線①「今日こそは、哲にパンをあげたいとおもったのだ」とありますが、「今日こそは」と思ったのはなぜですか。

問二

初めてのカンパに、「ぼく」がきんちようしている様子がわかる一文を文中から書きぬきなさい。

問三

——線②「おれ、友だちからはもらわねんだ」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 哲は、「友だち」とはどんな関係でありたいと考えていますか。次の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

な関係。

(2) 哲は、どんな人からならパンをもらうのですか。次の文の□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

哲にただ

しているだけの人。

問四

何でもないことのようにパンをもらう哲ですが、本当はどんな気持ちだったのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア うれしい イ はらだたしい
ウ つらい エ ほこらしい

問五

——線③「ぼくという人間に、ぼく自身が失望していた」とありますが、「ぼく」が失望しているのは、自分のどんなことに気づいたからですか。それがわかる一文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問六

——線④「私や青木君なんて、哲ちゃんにとって、友だちでもなんでもなかった」とありますが、宮本さんはそれをどんなことから知りましたか。次の文の□□にあてはまることばを書きなさい。

「友だちからはもらわない」と言う哲が、宮本
さんや青木君のパンは□□こと

問七

——線⑤「ぼくは、ママの顔を見ずに玄関に行った」とありますが、それはなぜですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア へたな言いわけをして、ママにうそをついて出かけることが知られてしまうとこまるから。

イ 友だちを大切に思う気持ちがわからないママと話などしたくないし、早くお別れ会に行きたかったから。

ウ 「ぼく」のすることにいちいち口出しをしてくるママに、うんざりしていたから。

エ 「ぼく」を心配してくれるママの言うことにしたがわないのが、心苦しかったから。

--

第七講

説明的文章③



◆文章の構成

それぞれの段落だんらくの役割やくわりをとらえ、段落と段落の関係をつかむと、筆者の説明しようとしていることがはっきりします。

(1) 話題を述べる段落

ふつう、文章の初めにあります。

(2) 前の段落の内容と同じようなことを付け加えて述べる段落

「また」「そして」「さらに」などのつながりごとに注意します。よく前の段落と結びついて大きな意味段落を作ります。

(3) 前の段落の内容とは反対の内容を述べる段落

「しかし」「ところが」などのつながりごとに注意します。

(4) 前の段落の内容の具体例を述べる段落

「たとえば」などのつながりごとに注意します。

(5) 前の段落の内容をまとめ、言いかえる段落

「つまり」「要するに」などのつながりごとに注意します。

(6) 前の段落の内容とは別の話題の内容を述べる段落

「ところで」「さて」などのつながりごとに注意します。文章の大きな切れ目となり、前の段落と結びつくことはありません。

※多くの文章では、それぞれの形式段落が(1)～(6)のような役割をもちながら前後の段落と結びついて意味段落を作り、その意味段落全体がまた前後の意味段落に対して(1)～(6)のような役割をもつというような複雑な関係になっています。

一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。(1)～(15)は段落番号を表します。

① 法隆寺大工の棟梁ほうりやうじから弟子しへ、そのまた弟子へと受けつがれてきた口伝くつでんは、自然を知りつくした、むかしの職人しやくにんたちの知恵ちえといえます。

② たとえば「用材①は木を買わず山を買え」という教えがあります。

③ 同じヒノキでも、環境かんきやうによって、育ち方はまったくちがってきます。地域ちいきによって、土壌どじやうもちがうし、季節きせうごとの気候や温度もちがいます。それが木の育ち方や、木材としての質のちがいにもなるのです。

④ だから、お堂や塔とうを建てるときには、あちこちの山からの木をつかうのではなく、ひとつの山に育った木をつかったほうがいい。一本一本にくせのちがいはあっても、ぜんたいとして木の力がそろっているほうがいいからです。それが「木を買わず山を買え」という言葉になっているのです。

15

10

5

⑤ 「木組みは寸法すんぽうで組まず木のくせで組め」という言葉もあります。

⑥ 木は、人間と同じように、一本一本特徴とくちやうというかくせがある。だから、そのくせをしっかり見てつかわないといけないという教えです。

⑦ 同じくらしいの太さをもったヒノキでも、生えている場所の風向きなどによって、右によじれようとするくせのついた木もあれば、左によじれようとするくせのついた木もある。それを無視むしして、右によじれる木ばかりをつかうと、建物たてものぜんたいが右によじれてしまいます。

⑧ では、よじれる木はつかえないのかというと、そんなことはありません。右によじれる木と、左によじれる木を組み合わせてつかう。そうするとおたがいのくせがかえって生きてきて、建物を強くささえることができるのだそうです。

⑨ また、山の中腹ちゅうふくより上で育った木は、雨風にさらされてくせがある。くせがあるかわりに芯しんが強いから、柱など建物をささえるところにつかうの

35

30

25

20

に適しているといえます。

10 ところが、谷で育った木は、雨風にさらされな
いから、くせがない。素直なかわりに弱いから、
柱にはできない。木目がそろっているから、天井
とか化粧板につかうといいというのです。

11 たったひとこと、ふたことの言葉のなかにも、
むかしの職人たちが、自然を深く知りつくしてき
たことがうかがえます。

12 法隆寺の大修理にもたずさわった、西岡常一さ
んという、宮大工の棟梁は、^②「千年の木なら、千
年のくせがついている。そのくせを知り、くせに
あつたつかい方をすれば、木造建築物は、千年は
充分にもつ」といっています。けれども、くせを
無視してみな同じつかい方にしてしまうと、千年
もつものも、もたなくなってしまうというのです。

13 法隆寺ができた飛鳥時代から受けつがれてきた
こんな口伝は、自然とともに生きてきた職人たち
の知恵です。木を育て、森を守り、そして山を大
切にしてきた、むかしの人たちの知恵です。

14 でも、木を知りつくした職人たちの知恵や技術
も、修理につかう木がないとなると、やがては消
えてしまうことになります。千年以上もむかしか
ら受けついできた口伝も生かしようがないのです。

15 これは、法隆寺だけの問題ではありません。日本
じゅうの由緒あるお寺や神社がかかえる大きな問
題です。お寺や神社だけではありません。お城や
橋など、立派な木造建築物が日本にはたくさんあ
ります。その修理につかえる大きな木が、なくなっ
てきているのです。

(立松和平『古事の森』)

*1棟梁は宮大工の親方。

*2口伝は師が学問や技芸の大切な内容を口で伝えて教
えること。その教え。

*3宮大工は神社やお寺の建築や修理をせんもんにする
大工。

さがし、段落番号で答えなさい。

7

う教えは、どんなことを重視しているのですか。

「うこと」につながる十七字のことはを文中から書きぬきなさい。

[illegible]

問三 木と、木が育つた環境の関係をまとめた下の

表の(1)と(4)にあてはまることを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

木が育つ場所	木の性質	環境	木が育つ場所
(3)	(2)	雨風にさらされる	山の中腹より上
(4) 天井や	くせがなく素直だが、弱い	(1)	谷

問四

——線②「千年の木なら……千年は充分にもつ」とありますが、「くせにあったつかい方」をするとは木をどのようにつかうのですか。

問五

この文章で筆者が述べようとしていることをまとめた次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

法隆寺など木造建築物の

につかえ

る

がなくなってきたており、

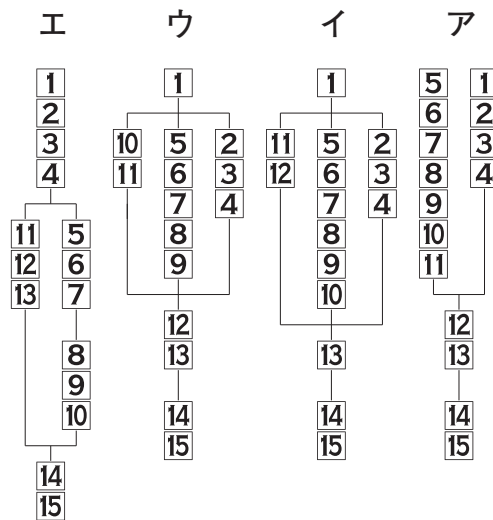
このままでは

職人たちの受けついできた知恵や技

術が生かせなくなってしまう。

問六

この文章の段落と段落の関係を図示したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。



第八講

説明的文章④



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

古いお寺や神社などの修理につかえるような大きな木を「大径木」といいます。法隆寺には樹齢数百年、千年以上のヒノキが多くつかわれていますが、

② そんな大きなヒノキは、日本にはもうないのです。伝統的な木造建築物の木材としては、強くて美しいヒノキがつかわれています。

お寺に行つて、建物の外側につきてた屋根の裏側を下から見ると、何本も太い木が並んでいるのが見えます。それが屋根をささえている「垂木」といわれる木材です。

③ 法隆寺の解体修理のときに、屋根の瓦をとると、その垂木がもとにもどるようにはねかえったということです。それまで何百年も重い屋根瓦を背負っていたのです。

10

たにもかかわらず、ピンと背筋を伸ばすように、まるで生きているようにはねかえるのです。それほど、ヒノキは強く、しなやかな木なのです。

15

丈夫で強い木でありながら、加工がしやすいやわらかさをもっている。しかも、仏像にもつかわれるほど木の肌が美しく、香りもよい。ヒノキは建築材の王様といってもいいくらいなのです。

20

でも、そのヒノキがない。建築材としてつかえる大径木がない。いまの日本では、樹齢五百年以上のヒノキはほとんど伐りつくされてしまっているのです。あつたとしても神社の御神木や、鎮守の森になつていたら、天然記念物に指定されていて、材として伐採できません。

25

二十年ほどまえにおこなわれた奈良・薬師寺の修理では、台湾から輸入したヒノキがつかわれました。でも、その台湾でも、森林保護のため、輸出が禁止

されるようになりました。

④ ないのは、建物につかわれるヒノキだけではありません。

たとえば、法隆寺の金堂修正会には「厳祈」といわれる行があります。漆の棒で、金堂の柱とか畳をたたいてまわるのです。まわりは国宝の仏像だから、ちょっと心配になるくらい、激しくたたいていくのです。その行には、伝統として漆の木が必要です。ところが、むかしからつかわれてきた漆の木が、なかなか手に入らないのです。

それから、法隆寺には「鬼追式」とか「追儼式」といわれる、鬼を追い払う儀式があります。このときつかわれる松明は、赤松の根っこの「ジンタ」といわれる部分でつくりまします。その「ジンタ」がとれる大径木がもうほとんどないのです。

こんな伝統行事につかう木に苦勞しているのは、法隆寺だけではなくありません。全国の神社仏閣が、いかにいわれぬ苦勞をしているはずで、これは、日本の伝統文化の危機ともいえるのです。

30

45

40

35

法隆寺の修理のひとつとっても、昭和の大修理はなんとか終わることができましたが、では、三百年後か四百年後にやってくる大修理のときはどうするのだろう？ つかえる大径木のヒノキ材が日本にもない、輸入もできないとなったら、いったいどうしたら……。

そんな心配がぼくの頭のなかでもつのってしました。

あれは、金堂修正会でのお手伝いをするようになって、七年目のときです。いつものように底冷えのする金堂の片隅で、お坊さんたちといっしょに声明をとなえていて、はたと思ったのです。

⑤ 「いまから植えれば、まにあうじゃないか……四百年後につかえる木が育つじゃないか」

お祈りをしているときは、本当は無心でないといけないのです。なにも考えず、ただひたすら声明を唱えるのがお祈りなのですが、ぼくの頭のなかでは「古事の森」のイメージがどんどん広がっていたのです。

(立松和平『古事の森』)

50

55

60

65

問一

線①「ヒノキ」の建築材としての長所と

して文中で挙げられていることを次のうちからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 手に入りやすいこと

イ 美しいこと

ウ 加工しやすいこと

エ 安いこと

オ 強いこと

カ 燃えにくいこと

キ 香りがよいこと

ク ゆがみにくいこと

--

問二

線②「そんな大きなヒノキは、日本には

もうないのです」とありますが、それはなぜですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア ヒノキはそんなに大きく成長できないから。

イ ヒノキの育つような自然環境が失われたから。

ウ ほとんど伐りつくされてしまったから。

エ 輸入されたヒノキに負けてしまったから。

--

問三

線③「法隆寺の……はねかえったという

のです」とありますが、この事実から筆者はどんなことを述べようとしていますか。二十字以内で書きなさい。

問四

——線④「ないのは……ヒノキだけではあり

ません」とありますが、ほかにたとえば何がな
いのですか。次の「」にあてはまることばを、
文中からそれぞれ答えなさい。

・「厳祈」で伝統的に使われてきた

・
がとれる赤松の大径木

問五

——線⑤「いまから植えれば、まにあう」と

ありますが、何にまにあうのですか。文中から
十八字で書きぬきなさい。

問六

この文章の段落構成^{だんらく}について、次の(1)・(2)に
答えなさい。

(1) この文章を内容から三つに分けるとする

と、二つめと三つめはどこから始まりますか。
それぞれ初めの七字を書きぬきなさい。

二つめ

三つめ

(2) (1)で分けた三つのまとまりの内容を次のう

ちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ヒノキは建築材の王様

イ 伝統文化の危機

ウ つかえる木とつかえない木

エ 心にめばえた「古事の森」

オ 暗いヒノキの未来

一つめ

--

二つめ

--

三つめ

--

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。(1)~(14)は段落番号を表します。

① 最初に「古事の森」の話^{＊にしほり}を西堀^{にしほり}さんにしたのは、

二〇〇一年の十月ころです。その三か月後には、候補地^{こうほち}として京都の鞍馬^{くらま}山国有林^{こくうりん}が決まり、

二〇〇二年の春には、植林^{ちりん}することになった。まさにトントン拍子^{びょうし}でした。

② いい森をつくりたい。未来にたいせつな森を残していききたい。その思いは林野^{りんや}庁^{ちやう}の人たちも同じだったのです。

③ 古いお寺や神社のなかには、もともと、自分で山林をもっているところもあります。伊勢^{いせ}神宮^{じんぐう}は、二十一年に一度、「遷宮^{せんぐう}」といって、社殿^{しゃでん}を新築^{しんちく}してご神体^{ごしんたい}をうつします。そのために必要なヒノキの森は、伊勢神宮が自ら育て、守っています。でも、全国のすべてのお寺や神社が、山林をもてるわけではありません。

④ それに、「適地適木^{てきちてき}」といって、その木が育つ

のにふさわしい土地があります。

⑤ 法隆寺^{ほうりゅうじ}も、裏山^{うらやま}に植林はしています。けれども、土地の性質からいって、どんなに育っても九十年ほどだそうです。法隆寺の大修理^{だいしゅうり}につかえるような、樹齢^{じゅれい}数百年以上のヒノキは、そこでは育たないのです。

⑥ 四百年もヒノキを育てるとしたら、やはり、国有林^{こくうりん}①がいいということになります。② 民有林^{みんいうりん}にはどうしても個人の事情が生じやすい。日本には七六〇万ヘクタールもの国有林があるので、全部あわせたら国土^{こくど}の二割^{にわり}にもなります。

⑦ 日本中にある国有林のなかから、その木にあった山を探^{さが}することができます。四百年のあいだ、「不伐^{ふばつ}の森」にすることも、国が太鼓判^{たいこばん}をおしてくれるというわけです。

⑧ 木を苗木^{かえぎ}から育てるには、いろいろな手入れもしなければなりません。

⑨ 根にじゅうぶんな栄養^{えいよう}をいきわたらせるために、まわりの雑草^{ざくそう}などを刈^かる「下刈^かり」をしなけ

15

10

5

20

25

30

35

ればなりません。夏の暑い時期にやる作業です。

- ⑩ 樹齡が十年をすぎるところになると、下のほうの枝を切る「枝打ち」もしなければなりません。余分な枝を切ると、木材としてつかうときの材質がよくなるのです。ヒノキは十年おきに二、三回くりかえされます。

- ⑪ 木がもっと大きくなると、となりどうしの木のあいだがきゅうくつになってきます。そのままにしておくと、枝と枝が重なりあって、うまく成長できない木がでてきます。

- ⑫ 日差しが地面にあたらなくなるので、暗く、草もはえてきません。そうになると、森が荒れてしまうのです。それを防ぐためにおこなうのが「間伐」です。伐つてもいい木を選んで本数を減らすのです。

- ⑬ 苗木を元気に大きく育て、建築材として立派な柱にもつかえるようにするためには、植えたあとの管理もたいせつな仕事なのです。その管理を四百年ものあいだ、きちんとやっていくには、民

50

40

40

間の人たちがもっている民有林より、やはり国有林がいいにちがいありません。

- ⑭ 代々受けつがれてきた木造建築物と、その建物のなかではぐくまれてきた精神や思想。それを、さらにつぎの世代の日本人に伝えるために、「百年不伐の森」として育てていく。この「古事の森」の話に賛成してくれた二百人ちかい人たちが、京都の鞍馬山での植樹に、朝早くから集まってくれたというわけです。

(立松和平『古事の森』)

*西堀さん〓筆者の友人で、国有林(〓国が保護・管理する森林)を管理する林野庁の役人。

55

60

問一

次の(1)～(3)は、――線①「国有林」と②「民有林」のどちらにあてはまりますか。それぞれ番号で答えなさい。

- (1) ある木に対する適地を探しやすい。
- (2) 個人の事情に左右されやすい。
- (3) 長い期間の管理がしやすい。

(1)

(2)

(3)

問二

――線③「植えたあとの管理」に必要な、次の(1)～(3)のことがらの説明として最もよいものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 枝打ち
- (2) 間伐
- (3) 下刈り

ア 下のほうの余分な枝を切る。

イ まわりの雑草などを刈る。

ウ 木のあいだがきゅうくつになってきたとき、数を減らす。

(1)

(2)

(3)

問三

――線④「鞍馬山での植樹」とありますが、古事の森をつくる場所として鞍馬山が選ばれたのは、どんな条件に合っていたからですか。その条件の内容を、「ヒノキ」ということばを使って十八字以内で書きなさい。

問四

次の(1)～(8)は、どの段落の要点をまとめたものですか。それぞれ段落番号で答えなさい。

- (1) 植林のあと管理していくにも、国有林のほうがよい。

- (2) いい森をつくりたいという思いは林野庁の人と同じ。

- (3) 法隆寺の裏山では、ヒノキは九十年ほどしか育たない。

- (4) 木が成長して枝が重なりあうと、うまく成長できなくなる。

(5) トントン拍子に進んだ「古事の森」。

(6) すべての寺社が伊勢神宮のように自分で山林をもてるわけではない。

(7) 歴史ある木造建築物とその精神をつぎの世代に伝えるための「古事の森」。

(8) 木には、育つのにふさわしい土地がある。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

第九講 ・ 文学的文章 ⑤



◆心情をとらえる

心情とは気持ちのことです。物語を読むときには、登場人物の心情をとらえることが大切です。

(1) 直接的な表現をとらえる。
ちよくせつてき

「うれしい」「悲しい」「はらを立てる」など、気持ちを直接表したことはをとらえましょう。

(2) 登場人物の発言に注目する。

気持ちを直接言わなくても、人のことばは気持ちを表すことがあります。

(3) 登場人物の表情や様子、行動に注目する。

ことばだけでなく、表情や様子、行動からも、その人物の気持ちを考えることができます。

(4) 登場人物の性格に注目する。

同じことばや行動であっても、だれが言う(行動する)かによってそこに表される気持ちは変わってきます。

(5) 情景から人物の気持ちを考える。

人物ではなく、情景を表すことばからも、人物の気持ちを読み取ることができます。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

おお、よだか^①でないただのたかならば、こんな生^{なま}はんかのちいさい鳥は、もう名前を聞いたただけでも、

ぶるぶるふるえて、顔色を変えて、からだをちぢめて、木の葉のかげにでもかくれたでしょう。ところが

がよだかは、ほんとうはたかの兄弟でも親類でもありませんでした。かえって、よだかは、あの美しい

かわせみや、鳥の中の宝石^{ほうせき}のようなはちすずめの兄

さんでした。はちすずめは花の蜜^{みつ}をたべ、かわせみ

はお魚をたべ、よだかは羽虫^{はむし}をとってたべるのでした。それによだかには、するどいつめもするどいく

ちばしもありますでしたから、どんなに弱い鳥で

も、よだかをこわがるはずはなかったのです。

それなら、たかという名のついたことは不思議なようですが、これは、一つはよだかのはねがむやみに

に強くて、風を切ってかけるときなどは、まるでた

かのように見えたことと、も一つはなきごえがする

15

10

5

どくて、やはりどこかたかに似ていたためです。もちろん、たかは、これをひじょうに気にかけて、いやがっていました。それですから、よだかの顔さえ見ると、肩^{＊しかた}をいからせて、早く名前をあらためろ、名前をあらためろ、というのでした。

ある夕がた、とうとう、たかがよだかのうちへやって参りました。

「おい。いるかい。まだお前は名前を変えないのか。」^④

ずいぶんお前もはじ知らずだな。お前とおれでは、よっぱど人格^{じんかく}がちがうんだよ。たとえばおれは、青

いそらをどこまでも飛んで行く。おまえは、曇^{くも}つてうすぐらい日か、夜でなくちや、出て来ない。それ

れから、おれのくちばしやつめを見る。そして、よくお前のとくらべてみるがいい。」

「たかさん。それはあんまり無理です。私の名前^{わたくし}は私が勝手につけたではありません。神さまから下さったのです。」

「いいや。おれの名なら、神さまからもらったのだ

といってもよからうが、お前のは、いわば、

A

35

30

25

20

と B と、両方から借りてあるんだ。さあ返せ。」

「たかさん。それは無理です。」

「無理じゃない。おれがいい名を教えてやろう。市蔵いちぞうというんだ。市蔵ぞうとな。いい名だろう。そこで、

名前を変えるには、改名*2の披露ひろうというものをしない

といけない。いいか。それはな、首へ市蔵と書いた

ふだをぶらさげて、私は以来市蔵と申しますと、口上*3をいって、みんなの所をおじぎしてまわるのだ。」

⑤ 「そんなことはとても出来ません。」

「いいや。出来る。そうしろ。もしあさつての朝ま

でに、お前がそうしなかったら、もうすぐ、つかみ

殺すぞ。つかみ殺してしまふから、そう思え。おれ

はあさつての朝早く、鳥のうちを一軒いっけんずつまわって、

お前が来たかどうかを聞いてあるく。一軒⑥でも来な

かったという家があったら、もう貴様きさまもその時がお

しまいだぞ。」

「だってそれはあんまり無理じゃありませんか。そ

んなことをするくらいなら、私はもう死んだほうが

ましです。今すぐ殺してください。」

「まあ、よく、あとで考えてごらん。市蔵なんてそ

んなにわるい名じゃないよ。」たかは大きなねを

一杯いっぱいにひろげて、自分の巢ねのほうへ飛んで帰って行

きました。

(宮沢賢治『よだかの星』)

*1 肩をいからせていばって。

*2 披露発表。

*3 口上あいさつ。

問一

□ A・Bにあてはまることばの組み合わせ

せとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア A 鳥 B そら
イ A おれ B 夜
ウ A 神さま B おれ
エ A たか B よだか

問二

線①「よだか」について述べた次の文から、まちがっているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 羽虫をとってたべる。
イ たかとは関係がない。
ウ つめがするどい。
エ かわせみの兄弟にあたる。

問三

線②「どんなに弱い鳥でも、よだかをこ

わがるはずはなかったのです」とありますが、では、ほんとうのたかに対してはどうでしたか。文中から五十一字でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

、

問四

線③「たかは、これをひじょうに気にか

けて、いやがっていました」とありますが、たかはどんなことをいやがっていたのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア よだかが「たか」という名をもっていること
イ よだかの空を飛ぶ様子がとても力強いこと
ウ よだかのなきごえがとてもするどいこと
エ よだかがたかのことをおそれないこと

問五

——線④「まだお前は名前を変えないのか」

とありますが、このときのたかの気持ちを説明した次の文の□□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

たかとは

がちがうにもかかわら

ず、いつまでも「たか」の名前をかたっている、

な

に、

はらを立てている。

問六

——線⑤「そんなことはとても出来ません」

とありますが、よだかが自分の名前に強い思い入れをもっていることがわかる一文を、ここより前の文中から書きぬきなさい。

問七

——線⑥「もう貴様もその時がおしまいだぞ」

とありますが、これは、だれがだれをどうするということですか。次の文の「」にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

が

を

ということ。

問八 この文章の内容と合うものを次のうちから一

つ選び、記号で答えなさい。

ア 小鳥たちは、たかのこともよだかのことも
おそれている。

イ たかはよだかに無理なことをいって、わざ
とこまらせている。

ウ よだかは、へんなことばかりいうたかにあ
きれている。

エ よだかは、たかの無理な要求にこまり果て
ている。



第十講

・ 文学的文章 ⑥



一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

あたりは、もううすくらくなくなっていました。よだかは巣から飛び出しました。雲が意地悪く光って、低くたれています。よだかはまるで雲とすれすれになって、音なくそらを飛びまわりました。

それからにわかによだかは口を大きくひらいて、はねをまっすぐに張って、まるで矢のようにそらをよこぎりしました。小さな羽虫が幾ひきも幾ひきもそののどにはいりました。

からだがつちにつくつかないうちに、よだかはひらりとまたそらへはねあがりました。もう雲はねずみ色になり、向こうの山には山焼けの火がまっ赤です。

よだかが思い切って飛ぶときは、そらがまるで二

10

5

つに切れたように思われます。一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいつて、ひどくもがきました。よだかはすぐそれをのみみましたが、その時何だかせなかがぞっとしたように思いました。

雲はもうまっくろく、東の方だけ山焼けの火が赤くうつって、恐ろしいようです。よだかはむねがつかえたように思いながら、またそらへのぼりました。

また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどに、はいりました。そしてまるでよだかののどをひつかいてばたばたしました。よだかはそれを無理にのみこんでしまいましたが、その時、急に胸がどきつとして、よだかは大声をあげて泣き出しました。泣きながらぐるぐるぐるぐるそらをめぐったのです。

(ああ、かぶと虫や、たくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどはたかに殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つ

25

20

15

らい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えて死のう。いやその前にもうたかが僕を殺すだろう。いや、その前に、僕は遠くの遠くのそらの向こうに行つてしまおう。」

山焼けの火は、だんだん水のように流れてひろがり、雲も赤く燃えているようです。

よだかはまっすぐに、弟のかわせみの所へ飛んで行きました。きれいなかわせみも、ちょうど起きて遠くの山火事を見ていた所でした。そしてよだかの降りて来たのを見ていいました。

「兄さん。今晚は。何か急のご用ですか。」

「いや、僕は今度遠い所へ行くからね、その前ちょっとお前にあいにくだよ。」

「兄さん。行っちゃいけませんよ。はちすずめもあんな遠くにいるんですし、僕ひとりぼっちになつてしまふじゃありませんか。」

「それはね。どうも仕方ないのだ。もう今日は何もいわないでくれ。そしてお前もね、どうしてもとらなければならぬ時のほかはいたずらにお魚をとつ

30

35

40

45

たりしないようにしてくれ。ね、さよなら。」

「兄さん。どうしたんです。まあもうちょっとお待ちなさい。」

「いや、いつまでいてもおんなじだ。はちすずめへ、あとでよろしくいつてやってくれ。さよなら。もうあわないよ。さよなら。」

よだかは泣きながら自分のお家へ帰って参りました。みじかい夏の夜はもうあけかかっていました。

(宮沢賢治『よだかの星』)

55

50

問一 線①「よだかは口を大きくひらいて」と

ありますが、何のためによだかは口をひらくのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 速く飛ぶため。

イ こきゅうをするため。

ウ 大声で泣くため。

エ えさをとるため。



線② 「そらがまるで二つに切れたように

「思われます」とありますが、これはどんなことをたとえた表現ですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア
よだかの羽はたく音のするどさ

イ
よだかの羽ばたきののびやかさ

ウ　よだかの飛ぶ速さ

工よだかの飛ぶ高さ

線③ 「一ぴきのかぶと虫が、よだかのの

どにはいつ」たときと、——線④「また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどに、はい」つたとき、よだかの行動と気持ちについてまとめた次の表のへゝにあてはまることばを、それぞれ書きなさい。

④		③	
気持ち	行動	気持ち	行動
<p>／＼</p> <p>／＼</p> <p>した。</p>	<p>／＼</p> <p>／＼</p> <p>よだかののをひつかいて</p> <p>／＼</p> <p>のみこんだ。</p> <p>／＼</p> <p>虫を、</p>	<p>／＼</p> <p>／＼</p> <p>ように思った。</p> <p>／＼</p>	<p>／＼</p> <p>／＼</p> <p>ひどく</p> <p>／＼</p> <p>／＼</p> <p>のみこんだ。</p> <p>／＼</p> <p>虫を、</p>

問四

——線⑤「泣きながらぐるぐるぐるをめぐったのです」とありますが、このときによだかの気持ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 羽虫やかぶと虫しか食べることができないのが情けなく、残念だ。

イ 生きていくために、他の生き物を殺さなければならぬことがつらい。

ウ 飢えて死ぬのならまだしも、たかに殺されるというのは、はらが立つてしかたがない。

エ かぶと虫にひつかかれたのが、痛くて痛くてたまらない。

☐

問五

——線⑥「まあもうちょっとお待ちなさい」といったときのかわせみの気持ちを説明した次の文の□にあてはまることを、文中から書きぬきなさい。

問六

ない。

にはなりたく

——線⑦「いつまでいてもおんなじだ」とはどういうことですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア どんなにはなれていても、ずっと兄弟は兄弟だということ

イ たとえ近くにとどまったとしても、もうあうつもりはないということ

ウ かわせみの家にいても、結局はたかに殺されるということ

エ いくら引きとめられても、遠くに行く気は変わらないということ

☐

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

「北の青いお星さま、あなたの所へどうか私わたくしを連れてって下さい。」

大熊星おおくまぼしはしずかにいいました。

「余計よけいなことを考えるものではない。少し頭あたまをひやして来なさい。そういうときは、氷山の浮ういている5

海の中へ飛び込こむか、近くに海がなかったら、氷をうかべたコップの水の中へ飛び込こむのが一い等だ。」

よだかは□¹して、よろよろ落ちて、それからまた、四へんそらをめぐりました。そしてもう一度、東から今のぼった天の川の向こう岸のわしの星さけに叫さけびました。10

「東の白いお星さま、どうか私をあなたの所へ連れてって下さい。焼けて死んでもかまいません。」

わしは大風*2おおふうにいいました。

「いいや、とてもとても、話にも何にもならん。星15になるには、それ相應の身分でなくちゃいかん。ま

たよほど金もいるのだ。」

よだかはもうすっかり力を落としてしまつて、はねを閉とじて、地に落ちて行きました。そしてもう一*3いっ尺しゃくで地面にその弱い足がつくというとき、よだかはにわかにのろしのようにそらへとびあがりました。20

そのなかほどへ来て、よだかはまるでわしがくまを襲おそうときするように、ぶるっとからだをゆすつて毛をさかだてました。

それからキシキシキシキシッと高く高く叫おびました。その声はまるでたかでした。野原や林にねむっていたほかのとりは、みんな目をさまして、ぶるぶるふるえながら、いぶかしそうに星ぞらを見あげました。³25

よだかは、どこまでも、どこまでも、まっすぐにそらへのぼって行きました。もう山焼けの火はたばこのすいがらのくらいにしか見えません。よだかはのぼってのぼって行きました。30

寒さにいきはむねに白くこおりました。空気がかすくなくなったために、はねをそれはそれはせわしくう35

ごさなければなりませんでした。

それなのに、星の大きさは、さつきと少しも変わりません。つくいきはふいご^{*4}のようです。寒さや霜^{しも}がまるで剣^{けん}のようによだかを刺^さしました。よだかははねがすっかりしびれてしまいました。そしてなみだぐんだ目をあげてもう一ぺんそれを見ました。そうです。これがよだかの最後でした。もうよだかは落ちているのか、のぼっているのか、さかさになっているのか、上を向いているのかも、わかりませんでした。ただこころもちはやすらかに、その血のついた大きなくちばしは、横にまがつてはいましたが、たしかに少し^④わらっておりしました。

それからしばらくたってよだかははっきりまなこをひらきました。そして自分のからだがいま^{りん}燐の火のような青い美しい光になって、しずかに燃^もえているのを見ました。

すぐとなりは、カシオピア座^ぎでした。天の川の青じろいひかりが、すぐうしろになっていました。

そしてよだか^⑤の星は燃えつつけました。いつまで

もいつまでも燃えつつけました。

今でもまだ燃えています。

(宮沢賢治^{みやざわけんじ}『よだかの星』)

*1 一等だ11番よい。

*2 大風に11いばった様子で。

*3 一尺11約三〇・三センチメートル。

*4 ふいご11火を起こすために風を送る道具。

問一

□にあてはまることばとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア びっくり イ がっかり
ウ むっと エ さっぱり

□

問二

線①「少し頭をひやして来なさい」の意味として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア もっと元気を出しなさい。
イ もっと寒さになれておきなさい。
ウ もっと冷静になりなさい。
エ もっと行動でしめしなさい。

□

問三

線②「よだかはもうすっかり力を落としてしまつて」とありますが、このよだかが気持ちを切りかえて、氣力をふりしぼっている様子がわかることばを三つ、二十二字、四十字、二十一字で、文中からそれぞれさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。(。はふくみません)

ゝ	ゝ	ゝ

問四

——線③「いぶかしそうに星ぞらを見あげま

した」とありますが、とりたちはどんなことを不思議に思っているのですか。とりたちの気持ちとして、最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア どうしてよだかはんなに無理なことをお願いするのだろう。

イ どうしてこんな夜にたかが飛んでいるのだろう。

ウ どうしてよだかが自分たちをおそおうとするのだろう。

エ どうしてよだかがたかのような声を出すのだろう。



問五

——線④「少しわらっておりました」とあり

ますが、このときのよだかの気持ちを説明したものと最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 目的を果たせず死んでしまうことに心残りはあるものの、それなりに満足した気持ちでいる。

イ とても星にはなれそうもない自分のことを仕方がないと、あきらめる気持ちでいる。

ウ そばへ連れて行ってくれない星の心を理解できたことで、安らかな気持ちでいる。

エ 遠い遠い星へのあこがれを持ちつつけながら、すみきった気持ちでいる。



問六

——線⑤「よだかの星は燃えつづけました」

とありますが、よだかの星について説明した次の文の□□にあてはまることはを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

のすぐとなり、

の前で、燐の火のように青く美

しく光りながら、

燃えてい

る。

第十一講・説明的文章⑤



◆正確な読み

説明されている内容を正しく読み取るには、次のような注意が必要です。

(1) 事実と意見を読み分ける。

筆者が見聞きした事実と、それに対する筆者の意見・感想・結論とを区別して読むことで、筆者の伝えようとしていることがはっきりします。

① 事実を述べた文

筆者が意見や感想をもつきっかけとなったことや、こんきょ根拠、例などを述べています。「だ」「です」など、はっきり述べたり、「だそうだ」など、人から聞いた話として述べたりします。

② 筆者の意見やものの見方を述べた文

事実などをもとにして、筆者の考えを述べています。「思う」「考える」など、考えてあ

ることを示して述べるほかに、「くにちがない」「くだろう」「くかもしれない」など、筆者の判断をはんだんふくんだ表現になっている場合もあります。

(2) ことばの意味を正しく読み取る。

意味のむずかしいことばや特別な意味で使われていることばには注意が必要です。そのようなことばの説明が前後にある場合、それを参考にして意味をとらえるとよいでしょう。

(3) 指示語の内容を正確に読み取る。

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

生命のいちばんの特徴は、外部から栄養分を食べ物としてとり入れて、それを材料とし体をつくったり、そこから体を動かすエネルギーをとり出したり、いなくなったものを体外に捨てるというはたらきがあることです。これを代謝^①といい、そのはたらきは、細胞^{さいぼう}という外部とは膜^{まく}でへだてられた部分になっています。細胞の中にはいつも同じ状態が保たれ、外の世界と関係なく代謝活動が続いているのです。このような代謝活動を行っていないものを無生物といい、たとえば、雲や川、小石や岩、人間がつくった自動車や機械や道具などがあげられます。

生命のもう一つの特徴は、増殖^{ぞうしき}するという現象で、生物の個体や細胞の数を増やすことです。それによつて祖父母^{そふぼ}から親、そして子どもから孫へと子孫がつながっていくことになります。

それ自身で代謝する生命は、38億年前に生まれた

15

10

5

と考えられています^②が、どのようにして生まれたのかはまだよくわかっていません。

細胞の膜は、タンパク質^{*1}でできています。タンパク質は約20種類あるアミノ酸^{*2}がたくさんつながってできています。だから、生命がどのように誕生したのかという謎^{なぞ}は、①まず A、② B、③

C、というひとつづきのことがらを調べて解決しなければなりません。

地球が生まれたころは、煮えたぎる海、うち続く火山の爆発^{ばくはつ}、はげしい稲光^{いなびかり}、太陽からの強い光など、現在とはちがった荒々しい環境^{かんげい}であったと思われる^{*3}ます。そんな中、海水中でさまざまな原子や分子の反応^{*4}がおこっていろいろなアミノ酸^{*2}ができ、それらからタンパク質^{*1}がつくられ細胞になっていったのでしよう。

現在では、いろいろな分子やイオンをとかして高温の水溶液^{すいようえき}に太陽のような光を当てることができ、実験室でアミノ酸をつくり、実際にどのような反応が進んでいったかを研究しています。

35

30

25

20

生命になっっている細胞は、時間がたつとともに
ゆつくりとはたらきがおとろえていきます。細胞に
よぶんな物質がくつついたり、不要になったものが
捨てられずにたまっていつたりするからです。機械
が古くなって部品が壊れたり、ゴミがたまって動き
にくくなったりするのと似ています。

③ そのため、細胞の物質はたえず入れ替わっている
のですが、そのうち入れ替わる原子が足りなくなっ
たり、くつつかなくなったりします。新しい物質を
用意する細胞自身がおとろえていくからです。

④ このような代謝のはたらきが弱まると、やがて細
胞は死んでしまいます。動物なら血液を送る心臓、
植物なら水を吸う根の細胞など、生命体としてもっ
とも重要な部分の細胞が役割を果たさなくなると、
一つの生命体として死をむかえます。

(池内了)『命はどのようにして生まれたの?』

*1 タンパク質は動物の体を作る重要な物質。

*2 アミノ酸はタンパク質のもととなる物質。

*3 原子は物質を組み立てるもととなる小さなつぶ。

*4 分子は原子がいくつか集まってできるもの。
*5 イオンは電気を帯びた原子。

問一

線①「代謝」とはどんなはたらきのことですか。それを具体的に説明したことばを文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きなさい。

問二

線②「どのようにして生まれたのかはまだよくわかっていません」とありますが、生命がどのように生まれたかについて、具体的にはどのように調べていますか。それが書かれている段落の初めと終わりの四字を書きなさい。

問三

AとCにあてはまることばとして最もよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア それがどのように組み合わせられてタンパク質になったのか

イ アミノ酸が原子からどのようにしてできたのか

ウ そのタンパク質から細胞がどのようにして形づくられたのか

A
B
C

問四

線③「そのため」とありますが、なんのためですか。

--

問五

線④「代謝のはたらきが弱まると、やがて細胞は死んでしまいます」とありますが、この一連のしくみを説明した次の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

・細胞に

がくつつ

いたり、

がたまったりする。

・物質を入れ替えて同じ状態を保つ。



・新しい物質を用意する

がおとろえる。



・入れ替わる

が足りなくなったり、

くつつかなくなったりする。



・細胞が死ぬ。

問六

文中から、筆者の推測が書かれたひと続きの二文をさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

、

問七

この文章で書かれている生命の特徴を二つ、次のようにまとめました。□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

・□を行っている。

・個体や細胞などが□する。

第十二講・説明的文章⑥



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 生命は38億年という長い時間をかけて進化してきました。最初はただ一種類の生命から出発し、それを祖先として、^②「生物を分類するときの基本的な単位」であるいろいろな「種」に分かれてきたのです。その中で、あるものは動かずに栄養分をつくる能力をもった植物になりました。またあるものは、動き回って栄養分を集める動物になりました。

動物であっても、長い年月の進化の結果、多種多様な種が生まれ、殻をかぶった昆虫や背骨をもった魚類などになりました。その魚類からはカエルなどの両生類が生まれ、へびなどのハ虫類、トリケラトプスのような恐竜類、ハトのような鳥類、ヒトや牛のような哺乳類へと進化してきたのです。

10

③ いずれも、祖先から分けられるときに少し変わった能力を獲得し、それが自然環境によく合っていると栄え、自然環境に合わなかったものは絶滅しました。こうして、木が次々と枝分かれするように生物の種が増え、複雑な体をもったものが生まれてきました。

15

④ ヒトはサルから生まれたといわれていますが、現代のサルからヒトが生まれたわけではありません。サルとヒトの共通の祖先がいて、約600万年前、その祖先からサルとヒトに分かれたのです。だから、はじめ人は4本足だったのですが、2本足で立つて歩けると手を使えるようになり、食べ物が集めやすいとか、道具をつくることのできるなど、生きていく上で他の動物とは異なる生活の仕方をも身につけました。

25

ヒトは生物として見た場合には何ら特別な存在で

20

はなく、単純な祖先から枝分かれして生まれ、生き残ってきた動物の一種なのです。20万年前に現れ2万数千年前に一人もいなくなったネアンデルタール人のように、生き残れずに絶滅したヒトの種も多くありました。

ヒトが他の動物と異なるのは、脳の発達によって、考えたり、予想したり、意志を伝達し合ったりするなかで、生活に役立つものをつくり、文化を生みだし伝えてきたことです。ヒトは、それによって大いに繁栄し、きびしい自然を生き抜くことができたのです。そして動物としてのヒトから、知恵をもつ人になったのです。

人類の祖先は、約600万年前にアフリカに現れたと考えられています。2本足で立ち、森を出て草原にくらすようになったのです(どのようにして2本足で立って歩けるようになったかについては、いろいろな説があります)。2本足で立つことによって両手を自由に使えるようになり、いろんな手作業をすることができるようになりました。草原には森林と

30

35

40

45

ちがう動物や植物が生息し、それらを食糧として獲得する方法を身につけました。手の解放はヒトが進化してゆく大きなきっかけとなったのです。

まず最初に、解放された両手を使って道具を作りました。骨・角や石を細工したものです。なかでも約200万年前に現れたホモ・ハビルス(器用なヒトという意味です)は進んだ石器を作り、モリのようなものを使って狩りをし、包丁のようなもので植物を採集するようになりました。

約150万年前に現れたホモ・エレクトス(立つヒト)は、生まれ故郷のアフリカを出て世界中にちらばりました。人口が増えたため新しい土地へ進出するようになったのでしょう。アジアに来たのが北京原人やジャワ原人です。

(池内了『命はどのようにして生まれたの?』)
*モリリクジラや魚をとるための先のとがった漁具。

⑦

しやうじやう

55

60

問一

線① 「生命は38億年という長い時間をかけて進化してきました」とありますが、ヒトはどのように進化してきましたか。次の表のA、Cにあてはまることをそれぞれ書きなさい。

C	約200万年前	A	いつ
ホモ・エレクトスが現れた。	(B)が現れた。	人類の祖先がアフリカに出現した。	できごと

問二

線② 「ただー種類の生命から出発し……いろいろな『種』に分かれてきた」とありますが、その様子をたとえを使って説明している部分を文中から書きぬきなさい。

問三

線③ 「いずれも、祖先から分かれるときに少し変わった能力を獲得し」とありますが、ヒトは、2本足で立って歩く能力を獲得してどんなことができるようになったのですか。次の文の□にあてはまることを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

を自由に使えるようになり、

を集めたり、

をつくった

りすることができるようになった。

問四

——線④「ヒトはサルから生まれたといわれています」とありますが、事実はどうであると筆者は説明していますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア サルを祖先としてヒトが生まれた。

イ ヒトを祖先としてサルが生まれた。

ウ サルとヒトは別々の祖先から生まれた。

エ サルとヒトは同じ祖先から生まれた。

☐

問五

——線⑤「それ」が指している部分を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

～

問六

——線⑥「動物としてのヒト」とありますが、ヒトを生物という面から説明している一文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

～

問七

——線⑦「それらを食糧として獲得する方法を身につけました」とありますが、たとえばどんな方法ですか。次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

方法。

のようなものを使って狩りをする

法。

のようなもので植物を採集する方

問八

——線⑧「ホモ・エレクトス（立つヒト）は、

生まれ故郷のアフリカを出て世界中にちらばりました」とありますが、筆者はどんなことが原因だと考えていますか。

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

① ホモ・エレクトスの最大の発明は火を使うようになったことです。火を使えば、恐ろしい猛獣を近寄

らせず、夜も昼間と同じように明るく照らし出し、

冬は暖かく過ごせ、動物の肉や植物を料理して長持

ちさせ味もおいしくできます。火を利用できるよう

になったことは、のちに土を焼いて丈夫な土器とし、

砂からガラスを取り出し、岩から銅や鉄を作り出す

というような技術へと発展していきました。火の使

用はヒトの可能性を大きく広げたといえるでしょう。

ホモ・エレクトスは絶滅してしまいました。私たち

の直接の祖先は、約20万年前にアフリカに現れた

② ホモ・サピエンス（かしこいヒト）です。脳が大

きくなり、知能の力は現代の私たちとかわりません。

約6万年前にアフリカを出て世界中の島々のすみず

みまで生活場所を広げ、それぞれの壁画を残し、ネッ

クレスを作って飾るなど文化を生み出すとともに、

花を飾って人を埋葬するような宗教心が芽生えまし

た。

やがて、コメやムギやジャガイモやトウモロコシ

など、栄養分を多くふくむ主食とよばれる作物を栽

培するようになりました。農業を開始したのです。

およそ一万年前で、人びとは同じ場所に住み、集団

で生きるといふ、現代につながる生き方をするよう

になったのです。

③ 動物は単独で生きることではできません。多くのも

のは群れをつくって生活していますが、単独でたが

いに離れてくらしているものでも最低、子孫を残す

ためにオスとメスが出会う必要があるからです。そ

のため、④ オスはメスの気をひくために合図を送らね

ばならず、鳥や熱帯魚のような目立つ色、ホタルや

クラゲのような光、カエルやセミや鳥のような鳴き

声を使うようになりました。虫はフェロモンという

においを使って出会う努力をしています。

ヒトの場合は、結婚相手を探すだけでなく、猛獣

に襲われないために集団でくんだり、みんなで狩

りをしたりするようになりました。多くの人が集まると、それぞれが気持ちを伝え合わねばうまく行動できません。ものを考えるのにも言葉が必要です。

⑤ そのため、ものに名をつけたり、気持ちをあらわしたり、遠くに合図を送ったりするため、言葉を見つ、話ができるようになったのだと思います。

しかし、人が話ができるようになるのは、そう簡単⑥ではなかったと思われます。体のしくみとして二

つのことが揃⑦わねばならないからです。一つは、いろいろな声⑧音が出るように喉⑨の形が変わらねばならないことです。

サルは簡単な音声をだしますが、ヒトのように複雑な言葉にはなりません。それは、ヒトとサルの喉の構造がちがうためです。サルが言葉を話すためには、喉の形が変わらないとダメなのです。

もう一つは、言葉を覚え、使いこなすために脳が大きくならねばなりません。サルのような小さい脳では、簡単な合図は送れても、複雑な意志を思い浮かべ伝えることはできないのです。

50

45

40

ヒトがいつ話せるようになったのかはわかっていません。最初は簡単な合図だけであつたのでしょうが、喉の形が変わり、脳が大きくなり、生活や個人間の関係が複雑になっていくにつれて言葉も豊かになりました。そして脳をつかって言葉の組み合わせや規則⑩（文法）も決めていきました。□を通じ⑪て人は大きく発展することができたのです。

60

（池内了『命はどのようにして生まれたのか？』）

*フェロモン⑫動物が体から分泌⑬して、他の個体に影響⑭を与える物質。

55

問一

線① 「ホモ・エレクトスの最大の発明は火を使うようになったことです」とありますが、ヒトが火を使うようになったことを筆者はどう評価していますか。一文でさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

問二

線② 「ホモ・サピエンス」の特徴をまとめた次の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

・約
前に、

に出現した。

・
の力は現代人とかわらない。

・
やネックレスなど、
を

生み出した。

問三

・人を埋葬するような
た。
が芽生え

・作物を栽培し、
を開始した。

線③ 「動物は単独で生きることではできません」とありますが、それはなぜですか。次の「」にあてはまることばを書きなさい。

単独では

から。

問四

——線④「オスはメスの気をひくために合図を送らねばならず」とありますが、動物たちの合図にはどんなものがありますか。文中から三字以内のことばを四つ書きぬきなさい。

問五

——線⑤「そのため」とありますが、何のためですか。よいものを次のうちから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 猛獣に襲われない集団を作るため
- イ ものを考えるため
- ウ 狩りなどに多くの人を集めるため
- エ 狩りをしてくらすため
- オ 多くの人がそれぞれの気持ちを伝え合ったため

問六

——線⑥「二つのことが揃わねばならない」とありますが、「二つのこと」とはどんなことですか。それぞれ書きなさい。

問七

□にあてはまることばを文中から二字で書きぬきなさい。

第十三講・文学的文章⑦



◆主題をとらえる

主題とは、物語文の文章全体を通して、作者が最も伝えたかった内容です。したがって、物語文では、主題をとらえることが読み取りの大きな目的となります。主題をとらえるには、これまでに学習したことをすべて活用して、作者の思いにせまらなければなりません。特に次のような点に注意して読みましょう。

(1) 場面・登場人物をとらえる

主題をとらえるためには、まず場面設定を読み取っておく必要があります。特に人物どうしの関係は、主題と深くかわっている場合が多いので、しっかりとつかむようにします。

(2) 心情をとらえる

物語においては、登場人物の心情はとても大きな要素です。何があったときにどんな気持ち

になったかをとらえることが大切です。

(3) 心情の変化をとらえる

場面が進むとともに、登場人物の心情も変化します。この心情の変化は物語の展開と密接にかかわっているので、しっかりと読み取ることが必要です。どんな心情からどんな心情に変化したのか、何がきっかけだったのか、をていねいに読み取ります。特に大きな変化がある場合は、その変化自体が物語の主題である場合もあります。

一 題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

三上くんは、手紙を何通か少年に書き送っていた。

引越して間もない四月に届いた手紙には、〈今

度の学校は、あまりおもしろくありません〉とあつ

た。〈トシユキや南小の友だちのことを、しょっちゅ

う思いだします〉とも書いていた。手紙の締めくく

りは〈南小四年一組、フォーエバー！〉だった。

五月の手紙には、S市のことが書いてあった。

〈デパートがたくさんあって、日曜日は買い物に行

くのが楽しみです〉〈アーケードの商店街もありま

す〉〈市営球場ではプロ野球の試合もあるというの

で、いまから楽しみです〉〈今度、学校の社会科見

学で新聞社の支局に行きます〉〈S市のほうが都会

です〉

少年が住んでいるのは「町」だった。S市は、

十万人以上の人口がある、県内でも大きいほうの

「市」——県の職員だった三上くんのお父さんは出

世してS市に転勤になったんだと、町役場に勤める

少年のお父さんは少しうらやましそうに言っていた。

五月に届いた別の手紙には、新しい学校のことを

書いてあった。

〈けっこうおもしろい友だちもいます〉〈こっちは

クラスの数も多いので、運動会はずっともり上がる

そうです〉〈足の速い子がたくさんいるので、リレー

の選手にはなれないかもしれません〉〈トシユキと

同じ名前の（みよう字はちがいます）友だちがいて、

トシユキのことを教えてあげると、「今度会ってみ

たい」と言っていました〉〈こっちは男子と女子が

わりと仲がよくて、恋人になってる二人もいます〉

〈前の学校より勉強の進み方が速いので、宿題をや

るのが大変です〉

それを読んだとき、少年はちょっとムツとした。

① 〈こっち〉や〈前の学校〉という言い方がおもしろ

くなかった。自分と同じトシユキという名前の奴

のことを、どうせたいしたことないよ、と決めつけ

た。

手紙の返事に、〈約束どおり、夏休みになったら遊びに行きます〉と書いた。南小の友だちの様子を一人ずつこまかく教えてやって、最後に〈南小も五年生になったら急に勉強が難しくなりました〉と書いた。

③ 六月の手紙は、葉書だった。〈遊びに来るのを楽しみにしています〉とあった。

手紙のやり取りは、そこまでだった。S市を訪ねる段取りは、夏休み前にお母さんとおばさんに決めてもらった。「自分で電話すればいいのに」とお母さんはあきれ顔になって言ったが、少年は「いいよ、お母さんが決めて」と電話番号のメモを渡しただけで、自分では受話器を取ろうとしなかった。

「もしも断られたら嫌だから？」とお母さんはいたずらっぽい口調で訊いた。

「違うよ」と少年はすぐさま首を横に振った。

「じゃあ、アレでしょ、三上くんとしやべるのが恥ずかしいんですよ」

「違うってば。いいから早く電話してよ」

50

45

40

三上くんの家に電話したお母さんは、おばさんと長話をして、「そうなんですよ、トシユキが、もう、とにかく三上くんに会いたい会いたいって言ってるんで……」と笑った。頬を赤くした少年は、電話を終えたお母さんに「違うよ、そんなこと言っていないよ、嘘つかないでよ」と抗議した。でも、お母さんにきょんとした顔で「でも、会いたいから遊びに行くんでは？」と訊かれると、なにも答えられなかった。

(重松清『南小、フォーエバー』)
*フォーエバー＝英語で「永遠に」という意味。

60

55

問一

トシユキと三上くんの関係をまとめた次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

トシユキと三上くんは以前

の同級生だったが、三上くんが

に引越して、はなればなれになった。

問二

線①「へこっち」や「前の学校」という

言い方がおもしろくなかった」について、次の

(1)・(2)に答えなさい。

(1) 四月の手紙では、「へこっち」や「前の学校」のことを何と言っていますか。

こっち

前の学校

(2)

その言い方がおもしろくないのはなぜですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア S市の都会ぶりを見せつけられたように感じたから。

イ 三上くんがS市の人間になってしまったように感じたから。

ウ トシユキたちの町をばかにされたように感じたから。

エ 三上くんがトシユキたちの町をわすれてしまっているように感じたから。

--

問三

——線②「南小も……難しくなりました」と

ありますが、このことばにはトシユキのどんな
気持ちがおめられていますか。次の文の
にあてはまることばを、文中からそれぞれ書き
ぬきなさい。

になったから勉強が難しく

なっただけで、S市の学校のほうが

わけではな

いと、三上くんは反発したい気持ち。

問四

——線③「六月の手紙は、葉書だった」とあ

りますが、このことからどんなことがわかりま
すか。最もよいものを次のうちから選び、記号
で答えなさい。

ア トシユキの様子が気になっていること

イ トシユキの返事が気に入らなかったこと

ウ トシユキに会えないつらさがとても大きい

こと

エ トシユキに知らせたいことが少なくなった

こと

問五

——線④「なにも答えられなかった」とあり

ますが、このときのトシユキの気持ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア まったく見当外れなので、あきれてものも言えない。

イ 言われた通りなので、言い返せない。

ウ 考えもしないことだったので、返事のしようがない。

エ 会いたくはないが、正直に言うわけにもいかない。



問六

この場面で見えがかれていることの中心として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア トシユキと三上くんの気持ちのすれちがいのきざし

イ 子ども同士のつき合いから親もまきこんだつき合いへの変化

ウ 市と町のくらしのちがい

エ トシユキと三上くんの固い友情



第十四講・文学的文章⑧



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

三上くんの家は県の職員住宅^{しよくいんじゅうたく}だった。前に住んでいた家よりも広い。まだ三上くんは帰っていなかった。おばさんが「ケイジには内緒^{ないしょ}よ」と勉強部屋を見せてくれた。

机^{つえ}や本棚^{ほんだな}は昔と同じだったが、机に出しっぱなしだった算数の教科書は、南小で使っているのとは違^{ちが}うものだった。壁^{かべ}に貼^はった時間割表^{じかんわり}も違う。月曜日の一時間目から算数なんてかわいそーっ、と笑った。南小では、月曜日の一時間目はどのクラスでも学級活動の時間だ。南小のほうがいい。ずっといい。

① 部屋に入^いったときに、すぐに気づいたことがある。三上くんが引^ひ越^こす前に、仲良しの友だちみんなと写真を撮^とった。すぐにプリントをして、みんなで

10

お金を出し合^あって買った写真立てに入れて三上くんに渡^{わた}した。

三上くんはそのプレゼントをすごく喜んでくれて、「部屋に飾^{かざ}っとくから」と言った。少年たちも「そうだよ、ずーっと一緒^{いっしょ}だから」「もし新しい学校でいじめられても、俺^{おれ}たちがついてるから」とうれしそうに言った。

でも、部屋のどこにも写真はない。何度見回しても、同じ。だから——写真なんて最初から探^{さが}さなかったんだ、ということにした。

「トシくん、カルピスつくったわよお」

台所にいるおばさんに呼^よばれて部屋を出る前、蛍^{②けい}光灯^{こうとう}のスイッチの紐^{ひも}の先に、軽く一発、右フックをぶつけた。

紐は思いのほか大きく揺^ゆれ動いて、ろくに狙^{ねら}いをつけずに放^{はな}った二発目のパンチは、空振^{からぶ}りになっ

20

15

25

しまった。

正午を回った頃、やっと三上くんが帰ってきた。居間でテレビを観ていた少年に、「おーっ、ひさしぶりい！」と笑顔で声をかける。息が荒い。顔が汗びっしょりになっている。自転車をとばして帰ってきた——早く会うために帰ってきてくれた、のだからか。

③一瞬ふわつとゆるんだ少年の頬は、三上くんと言葉を交わす間もなく、しぼんだ。

三上くんはおばさんに「お昼ごはん、なんでもいから、早く食べれるものにして」と言ったのだ。

④「一時から五組と試合することになったから」

おばさんは台所から顔を出して、「ケイジ、なに言ってるの」と怒った。「トシくんと遊んでしょ、今日は」

三上くんは、あつ、という顔になった。あわてて「わかつてるって、そんなのわかつてるって」と繰り返したが、あせた目があちこちに動いた。

けろっと忘れていたのだろう。ソフトボールの練

45

40

35

30

習中に急に「試合しよう」という話になって、「じゃあ、俺も行く」と安請け合いしてしまったのだろう、どうせ。

「ケイジ、あんたねえ、せっかくトシくんがわざわざ遊びに来てくれたのに、迎えもお母さんに行かせて、ずーっと待ってもらって……もうちょっと考えなさい」

しょんぼりと肩を落として「はい……」と応える三上くんよりも、少年のほうがうつむく角度は深かった。⑤おばさんが味方についてくれたのが、うれしくて、悔しくて、恥ずかしくて、悲しい。

＊フックルひじを曲げて横から打つパンチ。
(重松清『南小、フォーエバー』)

55

50

問一

線①「部屋に入ったときに、すぐに気づいたことがある」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) どんなことに気づいたのですか。次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

と撮った写真が部屋にないこと。

(2) 「すぐに気づいた」ということから、トシユキ(少年)についてどんなことがわかりますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 写真を友情のしるしとして大事に思っていること

イ 三上くんの部屋に初めて一人で入ったこと

問二

ウ 三上くんがいじめられていないか気になってしたこと

エ 三上くんと同じ学校に通えないことを残念に思っていること

--

線②「蛍光灯のスイッチの紐の先に、軽く一発、右フックをぶつけた」とありますが、ここに表れているトシユキの気持ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア おばさんが親切にしてくれることへの感謝と喜び

イ 三上くんにだまって部屋に入った後ろめたさと興奮

ウ 三上くんが以前と同じでないと感じた動揺といらだち

エ なかなか帰ってこない三上くんに対する不満といかり

--

問三

——線③「一瞬ふわっとゆるんだ……しぼんだ」とありますが、このときのトシユキの気持ちをまとめた次の文の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬき、()にあてはまることばをそれぞれ考えて書きなさい。

自分に早く

ために急いで帰ってき

てくれたのかと

思ったが、

早く

を食べて試合に

出かけるためだとわかり、

なった。

問四

——線④「一時から五組と試合することになった」とありますが、これはトシユキにとってどんなことを意味していますか。

問五

——線⑤「おばさんが味方についてくれたのが……悲しい」とありますが、このときのトシユキの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア おばさんがたしなめなければならぬほど三上くんがいやな性格になっていることにショックを受けた。

イ おばさんが気をつかって間に入ってくれるほど三上くと遠い間がらになったことを実感した。

ウ おばさんがトシユキの味方になったことで、三上くと敵対関係にあることを痛感した。

エ おばさんが味方したくなるほど自分が元気を失っていることを思い知らされた。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

トシユキ（少年）は、三上くんの誘いでソフトボールの試合に来ていた。

「いま、俺ら九人いるから……トシ、ピンチヒッターでいい？ 途中で、絶対に出發つくってやるから」

泣きたくなった。来るんじゃないかと思った。

「……やっぱり、帰るから」

少年は言った。校門前のバス停から駅行きのバスが出ているのは、さっき確かめておいた。

「ええーっ？ なんぞ？」と驚く三上くん「バイバイ」と言っ、最後にがんばって笑って、ダッシュで校門に向かった。

三上くんは追いかけてこなかった。

10

次のバスは五分後だった。ベンチに座って、ぼんやりと足元を見つめていると、グラウンドのほうから歓声が聞こえてきて、また目に涙がにじみそうに

なった。

予定よりもずっと早い列車で帰ることになる。まだ明るいうちに家に帰り着けるだろう。急いで出なければ、南小のグラウンドで遊んでいる友だちにも会えるかもしれない。早く帰りたい。みんなと遊びたい。もう「三上、元気かなあ……」なんて言わない。これからは、ずっと。

20

② そろそろだな、と膝に載せていたリュックサックを背負って立ち上がったら、「トシ！」と校門から三上くんが駆けてきた。

③ 「悪い悪い、ごめんなあ……ほんと、ごめん、守備のときは抜けれないから」

25

一回表の五組の攻撃が終わると、全力疾走してきたのだという。少しでも時間がとれるよう、ふだんは三番の打順も九番に下げてもらった。

「トシのこと忘れてたわけじゃないんだけど、やっぱり、こっちもこっちでいろいろあるから」

30

「……わかってるから、いいって」
「バスが来るまで一緒にいるから」

15

「いいよ、そんなの悪いから」

「でも……せつかく来てくれたんだし」

三上くんはグローブを二つ持ってきていた。ボールもあった。「ちょっとだけでも、キャッチボールしよう」と笑って、自分が使っていたグローブを少年に差し出した。

少年が黙って受け取ると、三上くんは照れくさそうに笑った。少年も目を伏せて笑い返す。

小走りに距離をとった三上くんが、山なりのボールを放った。それを軽くキャッチしたときに、氣づいた。

〈南小4年ー組フォーエバー！〉

グローブの甲に、サインペンで書いてあった。転校したての頃に書いたのだろう、黒い文字は薄れかかっていた。

へへっ、と少年は笑う。うれしいのか悲しいのかわくわからなかったが、自然と笑みが浮かんだ。

「なに？」とけげんそうに訊く三上くんにはなにも答えず、ボールを投げ返した。

50

45

40

35

三上くんが「バス、来たぞ」と言った。振り向くと、道路の先のほうにバスの車体が小さく見えた。

⑤「ラスト一球」——さっきより少し強いボールを、少年は右手をグローブに添えて捕った。

〈南小4年ー組フォーエバー！〉の文字の上を右手の親指でなぞると、うっすらと積もっていた砂埃が拭い取られて、少しだけ、文字が鮮やかになった。

(重松清 『南小、フォーエバー』)

55

問一

——線①「グラウンドのほうから歓声が聞こ

えてきて、また目に涙がにじみそうになった」

とありますが、このときのトシユキの気持ちを

説明したものとして最もよいものを次のうちか

ら選び、記号で答えなさい。

ア 自分は三上くんにつきりきられてし

まったのだ。

イ 三上くんは南小のことなどまったく覚えて

はいないのだ。

ウ 三上くんは自分とはかわりのないところ

にいるのだ。

エ 自分は三上くんのことを何も知ってはいな

かったのだ。

☐

問二

——線②「そろそろだな」とありますが、何

がそろそろなのでしょう。

問三

——線③「悪い悪い」とありますが、このよ

うな三上くんの思いが行動に表れている部分を

文中からさがし、その初めと終わりの四字を書

きぬきなさい。

、

問四

——線④「黒い文字は薄れかかっていた」と

ありますが、黒い文字とともに何が薄れている

と言えますか。

問五

——線⑤「『ラスト一球』……捕った」とあ

りますが、このときのトシユキの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 三上くんが自分と遊んでくれるのはこれで

最後だと言われた気がして、落ちこんでいる。

イ 三上くんのえんりよのないボールに、二人

の気持ちのすれちがいを感じている。

ウ 三上くんがもうキャッチボールに興味きょうみがな

いことがわかり、がっかりしている。

エ 三上くんの気持ちのこもったボールから、

二人の友情を感じ取っている。

☐

問六

トシユキが、ばく然とした思いをかかえながらも、ある種の満足感を得ていることがわかる表現を文中から十字で書きぬきなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問七

この文章の主題は何ですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 過去にこだわる気持ちを乗りこえる少年の

心の成長

イ はなれた場所にいる人間が心を通いあわせ

ることの難むずかしさ

ウ 決して永遠ではあり得ない人の気持ちの移

ろい

エ 気持ちのすれちがいから生じた少年の心の

迷い

☐

第十五講・説明的文章⑦

◆要旨をとらえる

説明的文章を読む大きな目的は、要旨を読み取ることにあります。何かについて説明した文章では、説明の中心的内容を、筆者の考えを述べた文章では、その考えの中心的内容をとらえます。

(1) 段落の内容を確認する。

全体の要旨をとらえるためには、各部分での要旨をとらえることは欠かせません。

(2) 文章の構成を確認する。

文章全体の構成を明らかにすることで、筆者が特にどの段落の内容を述べたいのかがわかります。

説明文の多くは、次のような型にあてはまります。

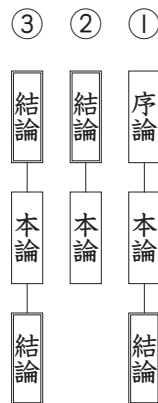
(序論Ⅱ 話題を示す。本論Ⅱ 説明。結論Ⅱ 言いたいこと。)

(3) 正確に読み取る。

事実と意見の区別、ことばの意味、指示語の内容に注意します。

(4) 文章全体の要旨をとらえる。

(1)～(3)に加え、文章全体のキーワード、キーワードセンテンスや文章の題名を参考に要旨をとらえます。結論を述べた段落を基にして、自分で要旨をまとめるのもよいでしょう。



一題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

生まれたばかりの子犬はお母さん犬の母乳^{ぼにゅう}をたくさん飲んで、体に必要な栄養や病気にならないための免疫抗体^{＊いめんえきこうたい}を受け取り、ぐんぐん大きくなっています。

お母さん犬に甘えたり兄弟犬と遊んだりけんかを

したりしながら、犬の社会に必要なルールを学びま

す。子犬が悪いことや危ないことをすると、ふだん

はやさしいお母さん犬が厳しく叱ります。そして子

犬は何が危険なのか、いたずらはどこまで許される

のか、などを学んでいくのです。人間と同じですね。

そして人間とどう接するかもこの時期に知ります。

生まれてからの数カ月、犬にとってたいへん重要

な時間なのです。

A 日本の法律では、生まれてから8週間以

上たたないと犬を売り買いしてはいけないことにな

っています。お母さん犬からの免疫抗体の効果が

15

10

5

この時期に切れるので、最初のワクチン注射^{ちゅうしや}を打つのもこの時期。B 犬用のドライフードもこの頃から食べられるようになります。

犬も猫も動物はみな、子どものときは本当にかわいいものです。

ぬいぐるみのように丸くて、コロコロと元気に遊ぶかわい姿^{すがた}を見て、子犬を飼いたいと思ったら、まずよく考えてみましょう。

② きみは、この子犬が大人になって、死ぬまでちゃんと面倒^{めんどう}をみるのができますか？

犬は人間よりずっと早く年をとります。

大型犬の場合、生まれてから最初の1年で人間の12歳^{さい}ぐらいになり、10歳になると人間でいえば76歳ぐらいのおじいちゃん、おばあちゃんになってしまいます。

きみが10歳のときに子犬を飼ったとしたら、20歳になる頃に、犬の体の年齢^{ねんれい}は何歳ぐらいになっているでしょう。そのときもきみは今と変わらず、その

35

30

25

20

犬を大切にできますか？

家族で夏休みに旅行に行くとき、犬はどうしますか？ 犬は長いあいだ、ひとりで留守番することはできません。

朝晩の散歩や食事の世話をお母さんやお父さんに任せっぱなしにしないで面倒をみる自信がありますか？

年をとれば、犬も人間と同じように病気になることが増えてきます。関節が痛くて歩けなくなったり、*2はくないしょう白内障＊2はくないしょうになって目が見えにくくなったり、耳も遠くなります。毛づやが悪くなり、口臭や体臭も強くなります。そうになると、汚いとか病院にかかるお金がもったいないなどといって、犬の世話をしなくなる人がいます。もう面倒をみきれないといって「動物愛護センター」や「動物保護センター」に持ち込

んだり、山の中に捨ててしまったりする人もいます。です。

きみたちは決してそんなことをしないでくださ

い。

(日野原重明『いのちのギフト』)

*1免疫抗体Ⅱ体に入ってきた病原菌などに抵抗する物質。

*2白内障Ⅱ目にごって見えにくくなる病気。

問一

A・Bにあてはまることばとして最

もよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なぜなら イ だから
ウ でも エ また

A

B

問二

線①「犬の社会に必要なルールを学びま

す」とありますが、たとえば何を学ぶのですか。文中に挙げられている例を二つ書きぬきなさい。

問三

1～19行目のまとまりのなかで、キーセンテンスとなる一文をさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

5

問四

線②「きみは、この子犬が大人になって、

死ぬまできちんと面倒をみることでできますか?」とありますが、具体的にどんなことを考える必要があるのですか。次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

・年をとって、犬が

になったり、

につやがなくなったり、

や

が強くなったりしても大切にでき

るのかということ。

問五

線③ 「犬は長いあいだ、ひとりで留守番

することはできません」とありますが、ここで筆者が言いたいこととして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 犬の世話をする人が必要だということ
イ 犬は旅行に連れて行けないということ
ウ 犬と人間はちがうということ
エ 犬を一頭で飼ってはいけないということ

・家族で

とき犬をど

うするのかということ。

や

を自分でできるのかということ。

問六

線④ 「そんなこと」とは、どんなことで

すか。次の文の「 」にあてはまることばを、それぞれ書きなさい。

をしなくなることを。

問七

この文章の要旨として最もよいものを次のう

ちから選び、記号で答えなさい。

ア 犬は生まれたばかりのときはお母さん犬の免疫抗体をもっているが、大きくなると病気になるやすい。

イ 生まれたばかりの子犬でも、年をとった犬でも、人間と同じところがたくさんある。

ウ 犬は子どものときはかわいいものだが、飼うならば死ぬまで面倒をみる覚悟をもたなくてはならない。

工 犬はぐんぐん大きくなるので、自分が何歳のときに犬の体は何歳ぐらいになるのかを知っておく必要がある。



第十六講・説明的文章⑧



一題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

年をとった犬はつまらないでしょうか？

「いいえ、そんなことはありません」と、犬を長く飼っている人の多くがそういいます。

老犬には老犬にしかない魅力^{みりょく}がたくさんあるそうです。

5

まず、とても落ち着いています。若い犬^{わか}のようにだれかれかまわずじゃれついたり、吠^ほえたり、いたずらをするのが少ないのです。世の中は犬の好きなばかりではありません。犬に近づかれただけで動けなくなるほど苦手な人もいます。そこへいくと、年齢^{ねんれい}を重ねた犬は動作もゆっくりしているし、少々のことであるさく騒^{さわ}ぎ立^たてたりしません。

10

年をとった犬は、子犬のときのような好奇心^{こうきしん}より

もマイペースを好み、一日中寝^ねていることが多くあります。それでもゆったりと寝ている犬がそこにいる、というだけで安心感^{あんしんかん}を与^{あた}えてくれます。

15

学校や仕事場といった外の社会^{あた}でいろいろなことがあり、なんだか疲^{つか}れてしまったとき、家族に老犬がいるというだけで、不思議にしみじみと平和な気持ちになるものです。

20

若い犬なら決してしないような間違^{まちが}いをしてみんなの笑いを誘^{さそ}ったり、若いときにはプライドが高かったのに老いてからとても甘^{あま}えん坊^{ぼうちやう}の犬に変わったという例もあります。犬を長く飼^かってきて、年老いた犬がいちばん愛^{いと}おしいという人も多いのです。

25

① 犬も長生きすると、人間と同じように認知症^{にんちしやう}になる場合があります。

そうなると昼と夜が逆転したり、いくら食べても「ごはんはまだかなあ」と何度も催促^{さいそく}に来たりする

かもしれません。

② オムツをする犬もいます。排泄はいせつをしていいところ
といけないところの区別がなくなったり、区別
はついても、コントロールする力がなくなっておも
らしをしてしまったりするからです。

そんな犬を見たら、きみたちは汚③ きみないと思うかもしれ
ません。

でも考えてみてください。きみたちも赤ちゃんの
ときはオムツをしていましたね。それでもお母さん
やお父さんは嫌いやな顔ひとつせず、「いいウンチが出
たね」とニコニコしながらうれしそうにオムツを取
り替かえていたのです。

人間だって大人になってから病気やケガ、それか
らうんと年をとって動けなくなるとオムツをするこ
とがあります。もちろんきみたちだって、いつかそ
うなるかもしれません。④ そんなとき、きみたちは家
族やまわりの人たちにどういうふうに接してほし
いですか？

⑤ 悲しいことや苦しいこと、たくさんストレスに

30

押おしつぶされそうになって、もう死にたいと思っ
てしまったことはありませんか？

そんなとき、長く生きてきた老犬の姿すがたは「小さな
ことは気にしないでいいんだよ」という、生きかた
のコツを教えてください。

犬は病気になっても、年をとっても、犬同士でけ
んかしていじめられても、そしていちばん大好きで
信頼しんらいしていた人間に裏切うらぎられても、自分から死のう
とすることは決してありません。

動物は、生き延のびることしか考えません。

苦しいときには、それを乗り越こえるために強くな
り、あるいは苦しみから逃のがれる知恵ちえを出し、あるい
はじつと耐たえ忍しのぶことで、老犬になるまで生き抜ぬい
てきました。そして満足そうにそこで寝ているので
す。

犬は何もいわないけれど、そこにいるだけで、き
みたちが生きていくために大切なことを身をもつて
教えてくれるのです。

(日野原重明『いのちのギフト』)

50

問一

この文章を三つに分けるとすると、どこで分けられますか。第二、第三のまとまりの初めの四字をそれぞれ書きぬきなさい。

第二

第三

問二

線①「犬も長生きすると、人間と同じように認知症になる場合があります」、②「オムツをする犬もいます」とありますが、これらの例を通して筆者が言いたいこととして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 犬は人間とまったく同じように考えねばならないということ

イ 犬がわずらわしい存在そんざいになるかもしれないということ

ウ 犬にもいろんな個性があるということ

エ 犬は人間の思う通りには行動しないということ

こと

問三

線③「汚いと思う」とありますが、これとは反対の心の持ち方が表れている行動を文中から二十五字でさがし、その初めと終わりの四字をそれぞれ書きぬきなさい。

し

問四

線④「そんなとき、きみたちは家族やまわりの人たちにどういうふうに接してほしいですか?」と問いかけていますが、筆者はここでもんがなことが言いたいのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 家族やまわりの人たちはきみにも犬にも同じように接するはずだ。

イ きみたちが犬を家族と同じように考え、あつかうことはできるはずだ。

ウ 家族やまわりの人にきみたちの希望をちゃんと伝えておくべきだ。

エ きみたちが人からこう接してほしいのぞむ接し方で、きみたちも犬に接してあげるべきだ。

問五

——線⑤「悲しいことや苦しいこと、たくさんストレス」とありますが、犬の場合はどんなことがありますか。文中に挙げられている例を四つにまとめて書きなさい。

問六

——線⑥「生きていくために大切なことを身をもつて教えてくれる」とありますが、具体的に何を教えてくれるのですか。次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

苦しくても生き抜くための

問七 この文章の要旨^{ようし}をまとめた次の文の□に

あてはまることばを、それぞれ文中から書きぬ
きなさい。

は、その場に

だけでい

いえいきょうを与えてくれる。

二題目

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

そしてある日、そのいのちが消える日が来ます。

手のひらに乗るほど小さかった子犬が大人になって、元気に外を走り、いつか年老いて、死んでしまします。

きみを玄関^{げんかん}で出迎^{でむか}えてくれたり、そばにいて話を

聞いてくれたりした、楽しいたくさんの思い出がありますね。犬が死んでから気づくことや、謝^{あやま}りたいこともたくさん思い出すでしょう。

子犬のときはあんなに遊んだのに、犬が年をとってから世話をしなくなっていたこと。きみが犬のこ

とを忘^{わす}れて遊んでいるときも、犬はきみが帰ってくるのをずっと待っていたのです。きみを恨^{うら}むことな

く、ただ早く帰ってきてとひたすら待っていました。そんなことが限りなく思い出されて、後悔^{こうかい}で涙^{なみだ}が止まらないこともあるでしょう。

15

10

5

お別れはとても辛い^{つら}ものです。犬を大切にしてください。た人ほど、その悲しみは深いはず①です。その悲しみがあまりに深いので、もう二度と動物は飼わないという人もいます。

20

でも、きみがいつまでも泣いていると、きみを大好きだった犬はきつと悲しんでいます。

②もう「ごめんね」も「ありがとう」も死んでしまつた犬にいうことはできません。③でも、きみにできることがあります。

25

きみが犬にもらった幸せを、ほかのだれかに分けてあげるのです。それを「ペイフォワード」といいます。

だれから良いことをしてもらったら、それをそ

30

の人にお返しすることは「ペイバック」といいます。誕生日^{たんじょうび}のプレゼントをもらったから、その人の誕生日にお返しのプレゼントをする、それがペイバックです。

でも、死んでしまった愛犬に幸せのお返しをする

35

ことはもうできません。そこで、その愛犬にもらった幸せをほかの犬や動物に向けるのです。

それが「ペイフォワード」の考えかたです。

たとえば、ひどい目にあっている犬、ひとりぼっちになってしまった保護犬をセンターから引き取って、きみの家に迎えるというのもひとつの方法です。

もう犬や猫が飼えない、というのであれば、保護犬や保護猫、被災した犬や動物たち、盲導犬やセラピードッグなどのために、きみができることはないか考えてみませんか。

どんな方法でもいいですから、ひとつずつやってみてください。

45

④ だれかといっしょに楽しんだり、感動したり、泣いたりする時間を大切にしたいと私はいつも思います。心健やかに人生を楽しむためには、「憎む」という気持ちをもたないことです。人生には、もっとほかに時間をかけなければならぬことがたくさんあります。

50

大切なのは、穏やかな笑顔ををつくってあげたいと寄り添う気持ち、「愛の心をもつ」ということです。犬や動物のいのちに寄り添うことで、きみのいのちは支え合って輝くのです。

55

(日野原重明『いのちのギフト』)

*セラピードッグは心身がぎずついた人や障害を持つ人とふれ合うことで、心をいやしたり、治療効果を高めたりすることができるよう訓練された犬。

問

——線①「もう二度と動物は飼わないという人もいます」とありますが、それはなぜだと考えられますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　またすぐに次の動物を飼うのは、長いこと
いっしょにいた、死んだ動物に対して失礼だ
から。

イ 自分もずいぶん年をとったので、動物を飼うような体力がないから。

ウ これまでを思い返してみ、動物を飼って
楽しいことはなかったから。

工 次の動物が死ぬときに、また同じような悲しみを味わうのがいやだから。

11

問

——線②「もう『ごめんね』も『ありがとう』も死んでしまった犬にいうことはできません」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「ごめんね」をいいたいののは、どんなことに対してですか。それが書かれています部分の初めと終わりの四字を書きなさい。

§

(2) 「ありがとう」をいいたいの、どんなことに対してですか。文中のことばを使って書きなさい。

問三

線③ 「きみにできることがあります」に

ついで、次の(1)と(3)に答えなさい。

(1) 「きみにできること」とは、どんなことですか。「～こと」につながる二十一字のことばを文中から書きぬきなさい。

[illegible]

27

(2) (1)のようなことを何といいますか。文中から七字で書きぬきなさい。

問四

線④ 「だれかといっしょに楽しんだり、

(3) たとえばどんなことができるかと文中には書かれていますか。

感動したり、泣いたりする時間を大切にしたい」
 のは、どんな気持ちの表れといえますか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

だれかのいのちに

気持ち

問五

この文章で、筆者は犬や動物を飼う意義をどう述べていますか。次の文の□にあてはまることを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

心健やかに

た

めに大切な、

をもつことができ

る。

第十七講・詩

◆詩の種類

詩は、用語・形式・内容によって分類することができます。

(1) 用語

- ① 口語詩…現在のことばで書かれた詩。
- ② 文語詩…昔のことばで書かれた詩。

(2) 形式

- ① 定型詩…音数、リズムが一定の詩。
- ② 自由詩…音数、リズムが決まっていない詩。
- ③ 散文詩…ふつうの文章のように書かれた詩。

(3) 内容

- ① 叙情詩…作者の感動を中心に書かれた詩。
- ② 叙景詩…風景を中心に書かれた詩。
- ③ 叙事詩…できごとを中心に書かれた詩。

◆詩の表現

- (1) 比喩(たとえ)…別のものにたとえて、イメージを伝える。

- ① 直喩…「まるで」のようだ」などのことばを

使ったとえる。

- ② 隠喩…「まるで」などのことばを使わずに

たとえる。

- (2) 擬人法…人でないものを人にたとえる。

- (3) 倒置法…ことばの順序を逆にして、印象を強

める。

- (4) 体言止め(名詞止め)…文末を体言で止めて、

余情を残す。

- (5) くり返し(反復法)…同じことばをくり返して、

印象を強める。

- (6) 対句…同じリズムで、似た内容や対立する内

容のことばをならべて、リズムを整え、

印象を強める。

- (7) 省略…ことばを省いて余韻を残すことで、印

象を強める。



一 題目

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヒマラヤ桜^{ひまらやざくら}小野十三郎^{おののむねぞう}

おくれで

ただ一本。

さくらが咲^さいている

遠い山のなかの

やや寒^{さむ}い空気の中に、真白^{まっしろ}に。①
それが、ここから

はつきりと

わたしには見えるのだ。

話によれば

インド^{インド}のヒマラヤ桜^{ひまらやざくら}はなんと海拔^{かいばつ}四千米^{よんせんメートル}のあたりに咲く。満開^{まんかい}の枝^{えだ}に孔雀^{くじやく}がきてとまっていたりするそうだ。②
日本はさくらの国だが

日本のさくらは

少し埃^{ほこり}っぽい*¹
まん幕^{まく}を張^はったり*²
ぼんぼりを入れたりして

にぎやかすぎる。

あの

遠い山の

寒い空気の中に

ただ一本

真白に咲いている

さくらのようなもので

ありたい。

*¹まん幕^{まく}||お花見の場所に飾^{かざ}りつけられる紅白^{こうはく}の幕。*²ぼんぼり||お花見の場所につけられるあかり。

問一 この詩の分類を次のうちから二つ選び、記号

で答えなさい。

ア 文語詩 イ 口語詩

ウ 定型詩 エ 自由詩

☐ ☐

問二 — 線①「それ」とは何ですか。詩の中から

八字で書きぬきなさい。

問三 — 線②「日本のさくら」は、ヒマラヤ桜と

比べて、どうだといっていますか。詩の中から
七字で書きぬきなさい。

問四 ヒマラヤ桜のどんなところに作者はひかれて

いるのですか。最もよいものを次のうちから選
び、記号で答えなさい。

ア 寒い空気の中にただ一本真白に咲いている
ところ

イ 海拔四千米というとても高い場所で孔雀も
くるところ

ウ 作者のいる場所からはつきりと見えるとこ
ろ

エ 日本のさくらほどではないがにぎやかなと
ころ

☐

二 題目

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

少女

少女よ

お母さん^{かあ}に話しかけるようにして
私^{わたし}にも話しかけてください

お友だちのことでもいいの

あなたの好きな花の名でもいいの

① お母さんのゆくところ

どこにでもついてまわる

あなたのように

私の娘^{むすめ}も

洗濯^{せんたく}をする後^{うしろ}から抱^だきついて

耳こすりをしたり

野菜^{きざ}を刻^そむ傍^{そば}につききって

豆の皮をむいてくれたり

市場に行く後を追ってきて

小さなノートをねだったりしました

戦火に追われつづけていたときも

信じきったひとみで私を見上げ

温かく 私の手を握^{にぎ}りつづけていました

新しい季節^{おとし}が訪^{おも}れるたびに

服のすそをおろし

セーターの袖口^{そでぐち}を編^あみたして

背^{せい}くらべもしました

少女よ

運動会はもうすみしましたか

お母さんによりそって何を話しているの
ちよつとふりむいて

② 私にもお話を少しわけてくれないかしら

私の娘はおとなになってしまいました

ビニールの紅葉^{もみじ}がひらひらしている商店街を
私はひとりで 買いもの

この秋は

栗^{くり}のご飯^{ごはん}を炊^たくのも忘^{わす}れてすぎていました

(高田敏子「砂漠^{さばく}のロバ」)

問

——線①「お母さんのゆくところ／どこにでもついてまわる／あなたのように／私の娘も」とありますが、「私の娘」の人なつこさがよく表れた行動を三つに分けて書きなさい。

--	--	--

問二

線②

「私にもお話を少しわけてくれないかしら」が表している、「私」の気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア かつての自分と娘を思い出し、なつかしさとせつなさを感じている。

イ この年ごろの少女が母親にどんな話をするのか興味を持っている。

ウ 仲のよい親子を見て、自分だけがのけ者のように感じられ、くやしくなっている。

エ 話しかけても答えてくれない少女にいらだち、素直^{すなお}だった自分の娘をなつかしんでいる。

☐

問三

線③

「栗のご飯を炊くのも忘れてすぎていました」が表していることとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 家事をひとりでこなすために、とてもいそがしいこと

イ 手作りのごちそうを食べてくれる人がそばにいないこと

ウ 自分で調理しなくても何でも手軽に手に入ること

エ 年をとって、もの忘れがひどくなってきたこと

☐

問四

子どもが成長していくことを喜んでいたころのことが書かれているのはどの連ですか。一つ選び、漢数字で答えなさい。

第

☐

連

問五 この詩で中心的に描^{えが}かれている「私」の気持

ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 戦争で最愛の娘を失った悲しみ

イ 娘がりっぱに成長した喜び

ウ 何も話そうとしない少女へのうらみ

エ 娘がおとなになり、自分のもとを離^{はな}れたさびしさ



三題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

奈々子^{ななこ}に

吉野^{よしの} 弘^{ひろ}

赤い林檎^{りんご}の頬^{ほお}をして
眠^{ねむ}っている 奈々子。

お前のお母さんの頬の赤さは
そっくり

① 奈々子の頬にいつてしまつて
ひところのお母さんの

つややかな頬は少し青ざめた
お父さんにも ちよつと
酸^すっぱい思いがふえた。

唐突^{とうとつ}だが

奈々子

② お父さんは お前に

多くを期待しないだろう。

ひとが

ほかからの期待に応えようとして

どんなに

自分を駄目^{だめ}にしてしまうか

お父さんは はっきり

知ってしまったから。

お父さんが

お前にあげたいものは

健康と

自分を愛する心だ。

ひとが

ひとでなくなるのは

自分を愛することをやめるときだ。

自分を愛することをやめるとき

ひとは

他人を愛することをやめ

世界を見失ってしまふ。

自分があるとき

他人があり

世界がある。

お父さんにも

お母さんにも

酸っぱい苦勞がふえた。

③ 苦勞は

今は

お前にあげられない。

お前にあげたいものは
香りのよい健康と

かちとるにむづかしく

はぐくむにむづかしい

自分を愛する心だ。

問一

この詩は何連から成り立っていますか。漢数字で答えなさい。

問二

線①「ひとところのお母さんの／つややかな頬は少し青ざめた」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) お母さんの頬は、もともと何色だったので
すか。

(2) 「少し青ざめた」とは、どんなことを表していますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア お母さんの頬が以前にも増してやせ細ったということ

イ お母さんが一人前のりっぱな大人になったということ

ウ お母さんがさまざまな苦勞を経験してきたということ

エ お母さんが酸っぱいものを食べすぎてしまったということ

問三

——線②「お父さんは お前に／多くを期待しないだろう」とありますが、それはなぜですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 奈々子には、お父さんとお母さんの酸っぱい苦勞に、自分で気づいてほしいから。

イ 奈々子はまだおさなすぎるので、どんなことを期待したらよいか分からないから。

ウ 奈々子には、自分のあるべきすがたを見失うことなく、のびのびと育ってほしいから。

エ 奈々子に期待をかけすぎて、あとでがっかりするのはいやだから。

問四

——線③「苦勞は／今は／お前にあげられない」とありますが、作者は、奈々子に、苦勞ではなく、何をあげたいと考えていますか。詩の中から二つ書きぬきなさい。

第十八講・短歌・俳句



◇短歌の重要事項

- ① 五・七・五・七・七の音数を基本の形式とし、音数がこれより多いものを字余り、少ないものを字足らずといいます。

- ② 一首（短歌の数え方）の中で意味が大きく切れるところを句切れといいます。

◇俳句の重要事項

- ① 五・七・五の音数を基本の形式とし、音数がこれより多いものを字余り、少ないものを字足らずといいます。

- ② 俳句には、季語（季題）といって、季節を示すことばを一つ入れるのが決まりとなっています。

春：桜・うぐいす・卒業

夏：あじさい・せみ・プール

秋：柿・ばった・運動会

冬：大根・ふぐ・スケート

- ③ 句の中で意味が切れ、感動の中心となるところに、切れ字（「や・かな・けり」など）が使われることがあります。

一 題目

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A いちはつの花咲きいでて我が目には

今年ばかりの春ゆかんとす

正岡子規

B 白鳥は哀しからずや空の青

海のをにも染まらずただよふ

若山牧水

C 清水へ祇園をよぎる桜月夜

こよひ逢ふ人みなうつくしき

与謝野晶子

問一

Aの短歌の中心はどんなことにありますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

なさい。

ア 明日をもしれぬ病にふせっている悲しみ

イ 日々自然の美しさをめでることができるとへの感謝

とへの感謝

ウ いつにもまして美しい季節をむかえられた喜び

喜び

エ いろいろなことを見落としてきたことへの怒り

怒り

問二

Bの短歌に「哀しからずや」とありますが、どんなことを「かなしくはないのだろうか」といつているかを述べた次の（ ）にあてはまることばをあとから選び、記号で答えなさい。

白鳥が空の青色にも海の青色にも染まらず

() ただよっていること

ア 自由に イ 孤独に

ウ のどかに エ 一心に

☐☐

問三 Cの短歌は何句切れの短歌ですか。

問四 Cの短歌でよまれている作者の心情として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

さい。

ア 月の光と古都の優美な雰囲気にうっとりとなっている。

イ 不慣れな土地にひとりでいるので心細くなっている。

ウ 自分の美しさをほめられていい気分になっている。

エ 好きな人に逢えてうれしさがこみあげてきている。

二 題目

次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A ゆく秋の大和の国の薬師寺の

塔の上なる一ひらの雲

佐佐木信綱

B たはむれに母を背負ひて

そのあまり軽きに泣きて

三步あゆまず

石川啄木

C 向日葵は金の油を身にあびて

ゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮

問一

Aの短歌に用いられている表現技法を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 倒置法

ウ 反復法 エ 体言止め

問二

Bの短歌の「三步あゆまず」とは、三步も歩けなかったという意味ですが、なぜ三步も歩けなかったのですか。心情も含めて答えなさい。

問三

Cの短歌の「金の油」は何をたとえたものですか。

三題目

次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A 春風^{はるかぜ}や 闘志^{どうし}いだきて 丘^{おか}に立つ

高浜^{たかはま}虚子^{きょし}

B 滝落^{たき}ちて 群青^{ぐんじょう}世界とどろけり

水原^{みずはら}秋桜子^{しゅうおうし}

C 咳^{せき}の子の なぞ なぞ あそびきりも なや

中村^{なかむらて}汀女^{いじよ}

D 雪とけて 村いっぱいの 子供^{こども}かな

小林^{こばし}一茶^{いつさ}

問一

A～Dの俳句によまれている季節をそれぞれ答えなさい。

A

B

C

D

問二

A～Dのそれぞれの俳句から感じられることとして最もよいものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア にぎやかさ イ 雄大^{ゆうだい}さ
ウ 愛情^{あいじょう} エ 希望

A

B

C

D

四題目

次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

い。

A 五月雨や大河を前に家二軒

与謝蕪村

B あはれ子の夜寒の床の引けば寄る

中村汀女

C 乳母車揺るゝりんごを持ちつつけ

中村草田男

D 花散るや耳ふって馬のおとなしき

村上鬼城

問一

A～Dの俳句の(1)季語と(2)季節を、それぞれ書きなさい。

A (1) (2)

B (1) (2)

C (1) (2)

D (1) (2)

問二

次のそれぞれの説明に合う俳句をA～Dから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 子どもに対する母親の愛情が句の中心にある。

(2) 生命の力強さとみずみずしさが感じられる。

(3) 自然のすさまじさと人工物のこころもとなさが対比されている。

(4) のどかな季節の一光景が童画のように描かれて^{えが}いる。

(1)

(2)

(3)

(4)

第十九講・敬語

◆敬語^{けいご}

敬語とは、相手をうやまう気持ちで使うことです。

敬語には次の三種類があります。

(1) 尊敬語^{そんけいご} 相手や話の中に出てくる人を直接う

やまうことば。

・「お(ご)……になる(なさる)」の形にする。

例 お読みになる

ご出席なさる

・尊敬の意味を表す「れる」「られる」をつける。

例 読まれる

来られる

・尊敬の意味を表す特別なことばを使う。

例 いらっしゃる

おっしゃる

くださる

(2) けんじよう語 自分がへりくだることによつ

て相手をうやまうことば。

・「お(ご)……する」の形にする。

例 お話する

ご報告する

・へりくだる意味を表す特別なことばを使う。

例 いただく

うかがう

申す

(3) ていねい語 ていねいに言うことば。

・「です」「ます」「ございます」をつける。

例 山田です

来ます

おはようございます

・「お」「ご」をつける。

例 お米 お茶 ごほうび



◆ 〈注意〉

敬語を正しく使わなければ、かえって失礼になります。特に次のようなまちがいをする人がたくさんいるので、注意が必要です。

(1) 尊敬語を使うべきところでけんじよう語を使う。

うやまうべき相手のことを表すのに、けんじよう語を使ってしまうまちがいが多くみられます。

例 × 船長さんが連絡をいたしました。

○ 船長さんが連絡をなさいました。

(2) けんじよう語を使うべきところで尊敬語を使う。

自分や自分の側の人があることを表すのに、尊敬語を使ってしまうまちがいもあります。

例 × 母さんがお書きになります。

○ 母がお書きします。

(3) 敬語を重ねる。(二重敬語)

例 × お客様がお帰りになります。

○ お客様がお帰りになります。

○ お客様が帰られます。

※「お……になる」か「れる」のどちらか一方が良いです。

例 × どういたされますか。

○ どうなさいますか。

○ どうされますか。

※けんじよう語の「いたす」に「れる」をつけても尊敬にはなりません。

① 次の——線のことばはア・イ・ウのどの言い方にあ
たりますか。それぞれ記号で答えなさい。

① 私がそちらにまいます。

② 先生がごらんになる。

③ 春も近いようです。

④ お客様が昼食をめしあがる。

⑤ 社長はもう帰られたようだ。

⑥ 友達のお父さんにごあいさつした。

--	--	--	--	--	--

ア 尊敬語
イ けんじよう語
ウ ていねい語

② 次の——線部のことばを、（ ）内の指示に
したがって敬語に直しなさい。

① 園長先生が時計を買う。

（「れる」「られる」を使って尊敬語に）

② 先生の本をかりる。

（「お（ご）……する」の形のけんじよう語に）

③ これから駅に行く。

（「です」「ます」を使ってていねい語に）

3

次の尊敬語とけんじよう語の特別なことばをま
とめた表の空欄くうらんにあてはまることばをあとから選
び、記号で答えなさい。

ふつうの言い方	尊敬語	けんじよう語
いう		おる
食べる	なさる	いただく
する		申す・申し上げる

ア めしあがる イ まいる
ウ うかがう エ いらっしゃる
オ くださる カ おっしゃる
キ いたす ク ごらんになる
ケ さしあげる

4

次の文のうち、敬語の使い方のまちがっている
ものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア これからわたしたちが校内をご案内なさいま
す。

イ あの時計は王女がくださったものです。

ウ いづうかがえばよろしいですか。

エ 決してごめいわくになるようなことはいたし
ません。

オ 校長先生がわたしたち二組の展示てんじをはいけん
しました。

カ その件は、母にもお伝えしておきます。

5

次の各文は敬語の使い方がまちがっています。まちがっている部分に——線をつけ、正しく書き直しなさい。

① 先生が食事をいただいています。

② あの方には、私がお話しになっておきます。

③ どうぞ拝見^{はいけん}されてください。

④ 国王は明日おいでになられます。

6

次の——線部の敬語の種類をあとのア～ウから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① あすの午後、うかがいます。

② 本日は、ありがとうございます。

③ 先生はお出かけになりました。

ア 尊敬語

イ けんじよう語

ウ ていねい語

7

次の——線部は敬語としてまちがっています。正しい表現に直して書きなさい。

① 先生が、ぼくたちの絵を拝見しています。

② どうぞ、冷めないうちにお食べしてください。

③ 母がよろしくとおっしゃっていました。

8

次の電話での会話で、まちがった敬語の使い方をしているものが二つあります。その文の番号を□に書き、正しい文に書き直しなさい。

① A 「もしもし、伊藤と申しますが、お母さん

はいらっしゃいますか。」

② B 「母は、ただ今お出かけになっています。」

③ A 「何時ごろ、お帰りになりますか。」

④ B 「今日は少しおそくなると申しております。た。」

⑤ A 「それでは、明日十時に会場にうかがいますとお伝えください。」

⑥ B 「はい、伊藤さんは十時にうかがうと伝えておきます。」

第二十講・品詞

単語は、八つの自立語と二つの付属語ふぞくごの十品詞ひんしに分類できますが、似たような単語でもちがう品詞のものがああります。それぞれの品詞の形やはたらきや性質せいしつを理解し、区別りかいできるようにしましょう。



1

次の単語のうち、名詞には○を、動詞には△を、
どちらでもないものには×をそれぞれつけなさい。

- | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| ゆっくり | わらう | 静けさ | ノート | 花 | 起きる |
| () | () | () | () | () | () |

2

次の単語のうち、他と品詞がことなるものを一
つずつ選び、記号で答えなさい。(言い切りの形
でないことばもあります。)

- | | | | | | |
|----------------------|-----|-----|------|-----|----|
| ① | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| <input type="text"/> | ア | ウ | ア | ア | ア |
| 暑く | おそく | はやく | うっかり | つまり | 君の |
| ③ | ④ | ③ | ② | ① | |
| <input type="text"/> | エ | イ | エ | イ | イ |
| 寒い | 冷たい | 話す | 聞く | 小さな | あの |
| ④ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| <input type="text"/> | イ | エ | ア | ウ | ア |
| 暑い | 暑さ | 走る | 近い | この | 君の |
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | |
| <input type="text"/> | エ | イ | エ | イ | イ |
| 寒い | 冷たい | 話す | 聞く | 小さな | あの |

3

次の——線部の単語の品詞名をあとのア～キから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 今日はとても暑い。

② さあ、いっしょに帰りましょう。

③ いそがしい。だから、わたしは行きません。

④ となりの家には、^a大きな犬^bがいる。

⑤ わたしはいそがしいから行きません。

a

b

6

静かな部屋でじっくりと本を読む。

キ	オ	ウ	ア
接続詞	連体詞	形容詞	名詞
	力	エ	イ
	副詞	形容動詞	動詞

4

次の①～⑦は、それぞれ同じ品詞の単語を集めたものです。品詞名をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① あ の 大きな たいした

② もっと じっくり ひらひら

③ ところが また だから

④ 学校 工作 気持ち

⑤ 見る 流れる 歩く

⑥ きれいだ 元気だ すこやかだ

⑦ 正しい うれしい まるい

--	--	--	--	--	--	--

ア 名詞
ウ 形容詞
オ 副詞
キ 接続詞

イ 動詞
エ 形容動詞
カ 連体詞

第二十一講 ・ ことば

● 類義語

よく似た意味を持つ語を類義語といいます。

例 欠点―短所

安全―無事

● 対義語

意味が反対、または対になる語を対義語といいます。

例 増加↕減少
男性↕女性

1 次の熟語の類義語を選び、それぞれ記号で答えなさい。

①	眞実	眞相	眞価	眞心
②	勤勉	勤務	任務	熱心
③	未来	将来	人生	進路
④	結果	結実	結末	結論
①	ア	イ	ウ	エ
②	ア	イ	ウ	エ
③	ア	イ	ウ	エ
④	ア	イ	ウ	エ

② 次の熟語の対義語を選び、それぞれ記号で答えなさい。

①	成功	①	成功	①	成功	①	成功
②	延長	②	延長	②	延長	②	延長
③	質疑	③	質疑	③	質疑	③	質疑
④	動物	④	動物	④	動物	④	動物
①	生物	①	生物	①	生物	①	生物
②	過失	②	過失	②	過失	②	過失
③	縮小	③	縮小	③	縮小	③	縮小
④	応答	④	応答	④	応答	④	応答
①	失敗	①	失敗	①	失敗	①	失敗
②	失念	②	失念	②	失念	②	失念
③	短縮	③	短縮	③	短縮	③	短縮
④	回答	④	回答	④	回答	④	回答
①	植物	①	植物	①	植物	①	植物
②	理由	②	理由	②	理由	②	理由
③	圧縮	③	圧縮	③	圧縮	③	圧縮
④	魚類	④	魚類	④	魚類	④	魚類

③ 次の熟語の中から、たがいに類義語になるものを一組ずつ選び、記号で答えなさい。

①	自然	①	自然	①	自然	①	自然
②	作用	②	作用	②	作用	②	作用
③	教養	③	教養	③	教養	③	教養
④	同意	④	同意	④	同意	④	同意
⑤	出版	⑤	出版	⑤	出版	⑤	出版
①	当然	①	当然	①	当然	①	当然
②	活用	②	活用	②	活用	②	活用
③	栄養	③	栄養	③	栄養	③	栄養
④	承知	④	承知	④	承知	④	承知
⑤	刊行	⑤	刊行	⑤	刊行	⑤	刊行
①	全然	①	全然	①	全然	①	全然
②	利用	②	利用	②	利用	②	利用
③	休養	③	休養	③	休養	③	休養
④	本意	④	本意	④	本意	④	本意
⑤	公表	⑤	公表	⑤	公表	⑤	公表
①	天然	①	天然	①	天然	①	天然
②	着用	②	着用	②	着用	②	着用
③	静養	③	静養	③	静養	③	静養
④	決意	④	決意	④	決意	④	決意
⑤	広告	⑤	広告	⑤	広告	⑤	広告

4

次の熟語の対義語を書きなさい。

⑦

原因^{げんいん}

⑤

部分

③

収入^{しゅうにゅう}

①

東洋

⑧

生産

⑥

賛成^{さんせい}

④

敗北

②

自然

5

次の①～③の類義語、④・⑤の対義語をあとの漢字を組み合わせて答えなさい。

④

①

急 点 席

出 不 敗

④

欠席

①

心配

⑤

圧勝

②

長所

⑤

②

所 安 化

美 便 完

③

弱点

③

6 次の□に漢字を一字入れ、類義語を作りなさい。

① 欠点 〓 □
所

② 準備 〓 □
意

③ 永遠 〓 永 □

④ 不平 〓 不 □

⑤ 進歩 〓 向 □

7 次の□に漢字を一字入れ、対義語を作りなさい。

① 安心 〓 心 □

② 危険 〓 □
全

③ 解散 〓 □
合

④ 終了 〓 □
始

●慣用句^{かんようく}

慣用句とは、二つ以上のことばが結びついて、もとのことばの意味とはちがう意味を表すことばです。

① 体の一部に関係がある慣用句

【例】・足が出る〓予算がオーバーして赤字になる。

・手に余る〓自分の能力^{のうりえく}ではできない。

・口が軽い〓おしゃべりである。

② 身の回りのものごとに関係がある慣用句など

【例】・板につく〓いかにもぴったりと似合^{にあ}う。

・さじを投げる〓あきらめて見放す。

●ことわざ

ことわざとは、昔から人々の生活を通して言い習わされてきたことばです。教訓的なもの、皮肉・風刺^{ふし}的なものなどがあります。

【例】・急がば回れ〓急ぐときこそ遠回りになっても

安全で確実な方法をとったほうがよい。

・氏^{うじ}より育ち〓りっぱな人格^{じんかく}を作るのは血^ちすじ

よりも環境^{かんきやう}である。

・ぬれ手であわ〓苦勞せずに大もうけをするこ
と。

・豆腐^{とうふ}にかすがい〓手ごたえがないこと。

① 次の□にことばを入れて、（ ）の意味をもつ慣用句を作りなさい。

① □ を切る

(関係をなくす。)

② □ を細める

(うれしそうな顔をする。)

③ □ を長くする

(今か今かと心待ちにする。)

④ □ をかぶる

(本当の性質^{せいしつ}をかくしておとなしくしている。)

② 次のことわざの意味をア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 石の上にも三年

② 石橋をたたいてわたる

③ 飛んで火に入る夏の虫

④ 朱^{しゅ}に交^{まじ}わればあかくなる

ア 用心の上にも用心する。

イ 友達によつてよくも悪くもなる。

ウ 危険^{きけん}なところに飛びこむ。

エ なにごともしんぼう強くすれば必ずなしとげられる。

□ □ □ □

3

次の□に、体の一部を表す漢字一字を入れ、慣用句を完成させなさい。また、その慣用句の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

①

を冷やす。

②

を運ぶ。

③

が無い。

④

をはさむ。

⑤

がたたない。

意味

ア

非常に好きである。

イ

話にわりこむ。

ウ

相手が強すぎてかなわない。

エ

出かけていく。

オ

落ち着き、冷静になる。

4

次のことわざ・故事成語の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

①

石橋をたたいてわたる

②

転ばぬ先のつえ

③

雨だれ石をうがつ

④

馬の耳に念仏

⑤

のれんにうでおし

⑥

五十歩百歩

ア 何を言ってもききめがない。

イ 用心のうえにも用心する。

ウ 手ごたえがない。

エ 前もって準備しておく。

オ 努力をつみ重ねれば成功する。

カ たいしてちがいががない。

5

次のことばの意味に近い語句をあとから選び、
それぞれ漢字に直して書きなさい。

① 口をとがらせる

② 手が上がる

③ 鼻が高い

④ 足が出る

⑤ 胸^{むね}をなでおろす

あかじ

とくい

あんしん

じょうたつ

ふまん

6

に入る鳥の名前を答えなさい。

①

の一声

②

鶺鴒^うのまねをする

③

百までおどりわすれず

④

に油あげをさらわれる

⑤

能ある

はつめをかくす

⑥

も鳴かずばうたれまい

⑦

が豆鉄ぼうを食ったよう

解答編

小学5年 国語 (応用)

第一講 文学的文章①

一 題目

問一 ① 祭り(別解 露店)

② 火薬を詰めて飛ばすロケットのおもちゃ

③ (例)うかれていた

問二 ウ

問三 喜一はお金を持って遊びに行くのが初めてで、うれしかったから。

二 題目

問一 ① (例)象が「苦しいです。サンタマリア。」と月にいつていたから。

② (例)わらも食べなくなり、ふらふら倒れて死をかくごするようになった。

問二 ① (例)意気地のないやつだとあきれた。

② (例)仲間に手紙を書くための硯と筆、童子を用意してくれた。

問三 ① ぼく(象)

② オッベル

③ (例)仲間の象(山の象ども)

問四 赤衣の童子

一 題目

問一 (1) (例) 小屋の前とつしるに二つずつあけた(しょうじの)こまほど

のあな

(2) (例) ツルたちをのぞき見するためのもの

問二 (例) はじめてツルたちの動作をのぞき見することができるから。

問三 イ

問四 ウ

二 題目

問一 イ

問二 エ

問三 街の明かり

問四 落ちつきがない

問五 飛行機はま

問六 ① 街の明かり

② お父さん

③ (例) さびしさ

一 題目

問一 ㊦

問二 (例) 人生のなかでいちばん幸福な日々は少年時代である。

問三 工

問四 ・(例) 少年のころは、まったく我をわすれて純粋に何かに没頭できる。

・(例) 大人になると、ほかのことが気になりつつ、あることに熱中する。

二 題目

問一 A

問二 ゆるい友だち関係

問三 高め合うような友だち関係

問四 4

問五 工

問六 ゆるやかなつきあい

問七 イ

小5 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 友たち・不安

問二 ですから、

問三 ベートーベン・村上春樹（順不同）

問四 エ

問五 孤独の力

問六 意識がぎゅつと凝縮していきます

問七 四面楚歌・原点・一つの世界

二題目

問一 孤独力

問二 ひとりの時間を楽しむ方法

問三 ② イ

③ エ

問四 自分の世界を閉じた状態

問五 エ

問六 友たち力・距離感・コントロール

一題目

問一 ・(例)お金を落としてしまったから。

・(例)信雄とはぐれてしまったから。(順不同)

問二 イ

二題目

問一 風邪

問二 入院しているばあちゃんの洗たく物を取りにきたんだ。

問三 洗たく物

問四 ア

問五 へとうちゃん (例)屋根から落ちて死んだ。

へかあちゃん (例)心の病気で入院している。

へばあちゃん (例)足を悪くして入院している。

問六 ぼくは、ゝがない。

問七 エ

一 題目

問一 哲

問二 (1) イ

(2) ウ

(3) ア

問三 (1) エ

(2) イ

問四 入試・実行委員・家で心配するんじゃないか

問五 エ

問六 (1) エ

(2) ア

(3) オ

二 題目

問一 (例) 哲にパンをあげることができるのは、今日が最後だから。

問二 ぼくは、なんども深呼吸をした。

問三 (1) 対等

(2) 同情

問四 ウ

問五 哲を友達とでいた。

問六 (例) もらった

問七 イ

解答 テキスト 応用 国語 小5

一 題目

問一 13

問二 ぜんたいとして木の力がそろっている(こと)

問三 (1) 雨風にさらされない

(2) くせがあるかわりに芯が強い

(3) 柱など建物をささえるところ

(4) 化粧板

問四 (例)くせが生きるように組み合わせてつかう。

問五 修理・大きな木・木を知りつくした

問六 イ

一 題目

問一 イ・ウ・オ・キ（順不同）

問二 ウ

問三 （例）ヒノキは強く、しなやかな木であること。

問四 漆の木・シント

問五 三百年後か四百年後にやってくる大修理

問六 （1） ≪二つめ≫ でも、そのヒノ

≪三つめ≫ 法隆寺の修理の

（2） ≪二つめ≫ ア

≪三つめ≫ イ

≪三つめ≫ エ

二 題目

問一 （1） ①

（2） ②

（3） ①

問二 ア

（1） ①

（2） ウ

（3） イ

問三 （例）ヒノキが四百年育つ土地であること。

（1） ②

（2） ⑤

（3） ⑪

（4） ①

（5） ③

（6） ④

（7） ⑭

（8） ④

一 題目

問一 イ

問二 ウ

問三 もう名前 〝 かくれた

問四 ア

問五 人格・はじ知らず・よだか

問六 神さまから下さったのです。

問七 たか・よだか・つかみ殺してしまう(別解 つかみ殺す)

問八 エ

一 題目

問一 エ

問二 ウ

問三 ③ 〈行動〉もがく・すぐ

④ 〈気持ち〉せなかがぞつとした

④ 〈行動〉ばたばたする・無理に

④ 〈気持ち〉胸がどきつと

問四 イ

問五 ひとりぼっち

問六 エ

二 題目

問一 イ

問二 ウ

問三 ・にわかに りました

・まるでわ り てました

・キシキシ り びました

問四 イ

問五 エ

問六 カシオピア座・天の川・しずかに

小5 国語 応用 テキスト 解答

一題目

問一 外部から へ はたらき

問二 現在では へ います。

問三 A イ

B ア

C ウ

問四 (例)細胞は時間がたつとともににはたらきがおとろえていくため。

問五 よぶんな物質・不要になったもの・細胞自身・原子

問六 地球が生 へ しょう。

問七 代謝活動・増殖

一 題目

問一 A 約600万年前

B ホモ・ハビルス

C 約150万年前

問二 木が次々と枝分かれするように(生物の種が増え)

問三 両手・食べ物・道具

問四 エ

問五 脳の発達 きたこと

問六 ヒトは生 のです。

問七 モリ・包丁

問八 (例)人口が増えたこと。

二 題目

問一 火の使用 しょう。

問二 20万年・アフリカ・知能・壁画・文化・宗教心・農業

問三 (例)子孫を残すことができない

問四 色・光・鳴き声・におい (順不同)

問五 イ・オ (順不同)

問六 ・(例)喉の形が変わること。

・(例)脳が大きくなること。 (順不同)

問七 言葉

一 題目

問一 南小四年一組・S市

問二 (1) 〈こっち〉 今度の学校

〈前の学校〉 南小

(2) イ

問三 五年生・勉強の進み方が速い

問四 エ

問五 イ

問六 ア

一 題目

問一 (1) 仲良しの友だちみんな

(2) ア

問二 ウ

問三 会う・(例)うれしく・お昼ごはん・(例)悲しく

問四 (例)三上ちゃんと遊べないということ。

問五 イ

二 題目

問一 ウ

問二 (例)バスが来る時間。

問三 一回表のくらった。

問四 (例)南小4年1組の仲間に対する思い。

問五 エ

問六 自然と笑みが浮かんだ

問七 ア

小5 国語 応用 テキスト 解答

一 題目

問一 A イ

B エ

問二 ・何が危険なのか

・いたずらはどこまで許されるのか（順不同）

問三 生まれてゝのです。

問四 病気・毛・口臭・体臭・旅行に行く・朝晩の散歩・食事の世話

問五 ア

問六 （例）年とった犬・世話

問七 ウ

一 題目

問一 〈第二〉 犬も長生

〈第三〉 悲しいこ

問二 イ

問三 ニコニコ えていた

問四 エ

問五 ・(例) 病気になること。

・(例) 年をとること。

・(例) 犬同士でけんかしていじめられること。

・(例) いちばん大好きで信頼していた人間に裏切られること。

(順不同)

問六 生きかたのコツ

問七 老犬・いる

二 題目

問一 エ

問二 (1) 子犬のと ました。

(2) (例) 玄関で出迎えてくれたり、そばにいて話を聞いてくれたりした

こと。

問三 (1) 愛犬にもらった幸せをほかの犬や動物に向ける(こと)

(2) ペイフォワード

(3) (例) ひどい目にあっている犬、ひとりぼっちになってしまった保護犬をセンターから引き取って、家に迎えること。

たこと。

問四 寄り添う

問五 人生を楽しむ・愛の心

一題目

問一 イ・エ (順不同)

問二 印度のヒマラヤ桜

問三 にぎやかすぎる

問四 ア

二題目

問一 ・(例)洗濯をする後から抱きついて耳こすりをする。

・(例)野菜を刻む傍につききって豆の皮をむいてくれる。

・(例)市場に行く後を追ってきて小さなノートをねだる。

(順不同)

問二 ア

問三 イ

問四 (第)五(連)

問五 エ

三題目

問一 十(連)

問二 (1) 赤

(2) ウ

問三 ウ

問四 (香りのよい)健康

自分を愛する心

(順不同)

一 題目

問一 ア

問二 イ

問三 三句切れ

問四 ア

二 題目

問一 エ

問二 (例) 背負った母があまりにも軽かったことで悲しくなったから。

問三 (例) 日光(別解 太陽の光)

三 題目

問一 ア

問二 ア

問三 エ

問四 春

小5 国語 応用 テキスト 解答

問二

D C B A

D C B A

ア ウ イ エ

春 冬 夏 春

四 題目

問一

(1) (1) (1) (1)

(2) (2) (2) (2)

春 秋 秋 夏

問二

(2) (1) D C B A

C B (1) (1) (1) (1)

花 散 る
り ん ごと
夜 寒
五 月 雨

(2) (2) (2) (2)
春 秋 秋 夏

(4) (3)

D A

1

① アイ
② ア
③ ウ
④ ア
⑤ ア
⑥ イ

2

① 買われる
② おかりする
③ 行きます

3

〈いる〉 エ
〈する〉 キ
〈食べる〉 ア
〈言う〉 カ

4

ア・オ・カ (順不同)

5

(まちがい)
① いただいて
② お話しになって
③ 拝見されて
④ おいでになります
↓
(書き直し)
① めしあがつて(別解 お食へになって)
② お話しして
③ ごらんになって
④ おいでになります

6

① イ
② ウ
③ ア

7

① ごらんになっています(別解 見ていらつしやいます)
② めしあがつてください(別解 お食へになってください)
③ 申しております

8

② 母は、ただ今出かけております。
⑥ はい、伊藤さんは十時にいらつしやると伝えておきます。

④ ③ ② ① ④
ア キ オ カ

⑥ ⑤ ④ ③ ② ① ③
エ ウ a キ イ カ

⑤ ④ ③ ② ① ②
イ ア ウ ウ ウ

⑥ ⑤ ④ ③ ② ① ①
× △ ○ ○ ○ △

ア

b

オ

④ ③ ② ① ⑤
オ エ イ ウ

⑦ ⑥ ⑤
ウ エ イ

【類義語・対義語】

1

④ ③ ② ①
イ ア ウ ア

2

④ ③ ② ①
ウ ア イ イ

3

⑤ ④ ③ ② ①
ア・イ ア・イ ウ・エ イ・ウ ア・エ

(それぞれ順不同)

4

⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①
結果 反対 全体 勝利 支出 人工 西洋

⑧ 消費

5

⑤ ④ ③ ② ①
完敗 出席 急所 美点 不安

6

⑤ ④ ③ ② ①
上 満(別解 服) 久 用 短

7

④ ③ ② ①
開 集 安 配

1

【慣用句・ことわざ】

④ ③ ② ①
ねこ 首 目 手

⑥ ① ⑤ ④ ③ ② ① ⑤ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ① ④ ⑤ ④ ③ ② ① ③ ④ ③ ② ① ②

つる 安心 赤字 得意 上達 不満 カ ウ ア オ エ イ 歯 口 目 足 頭 ウ イ ア エ オ イ ウ ア エ

⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ②

はと きじ たか とび(別解 とんび)

すずめ からす